

<平成25年度>

鳥取県文化芸術事業

評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

～ 目 次 ～

I 総合評価	1
II 実施結果概要	
1. 実施事業一覧	5
2. 評価の体系	5
III 事業別評価	
＜平成24年度実施事業＞	
1. 第10回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート西部地区事業（西部地区企画運営委員会）	6
2. 第17回鳥取県美術家協会作品展（鳥取県美術家協会）	12
3. TDAデザインクリエーション2012（鳥取県デザイナー協会）	14
＜平成25年度実施事業＞	
1. 第57回鳥取県美術展覧会（鳥取県文化観光局文化政策課）	16
2. とりアートスペシャルコンサート「鳥たちの音楽祭」～FLY HIGH～ （とりアートスペシャルコンサート実行委員会事務局）	18
3. 第11回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート東部地区事業（東部地区企画運営委員会）	24
4. 第11回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート中部地区事業（中部地区企画運営委員会）	28
5. 第11回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート西部地区事業（西部地区企画運営委員会）	32
6. 音楽日和ライブフェスティバル鳥取2013 vol.15（鳥取音楽座）	38
7. 第37回鳥取県川柳大会（鳥取県川柳作家協会）	42
8. 第42回鳥取県短歌大会（鳥取県歌人会）	44
9. 吉月をどり（鳥取県日本舞踊連合会）	46
10. 鳥取和太鼓連盟コンサート「和太鼓ふるさとの響2013」（鳥取県和太鼓連盟）	48
11. 鳥取県三流合同謡曲仕舞大会（鳥取県謡曲連合会）	52
12. 「ダンスの日」記念ダンス交流会（鳥取県ポールルームダンス連盟）	54
13. 第18回鳥取県俳句大会（鳥取県俳句協会）	56
14. 第40回鳥取県演劇連盟合同公演「花のあと」（鳥取県演劇連盟）	58
15. ヤングピアニストコンサート2013（鳥取県ピアノ指導者協会）	60
16. 県民による第九鳥取公演（県民による第九公演実行委員会）	62
IV 専門家評価	64
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	67
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告執筆担当一覧	68
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	69
○鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	70

I 総合評価

1. 今年度の評価方法

評価方法は、前年度とほぼ同様である。大項目、中項目を達成するための小項目目標は、それぞれの事業実施者に作ってもらった。

評価の客観性を確保するため、各事業とも原則として複数名の評価委員が検証することとし（事情により1名しか検証できない事業が1件あった）、実施者の自己評価、観客アンケート、実施者アンケートなどを踏まえて、検証した委員それぞれが評価を書いた。それを持ち寄り、検討した上で出したのが、本報告書の評価である。

なお、実施者との認識の相違や事実関係の間違いがあってはいけないので、評価報告会を開いて、評価原案を示した。それぞれの実施者から、活発な意見や指摘をいただき、原案に修正を加えている。評価報告会は、報告書をより良いものにするというだけでなく、実施者と評価委員との相互理解の場として、意義あるものになりつつある。

また今年度の報告書は、実施者の自己評価コメントと、評価委員会のコメントとを併記している。写真も組み入れ、わかりやすい報告書をめざした。

2. 今年度の事業評価

(1)メイン事業(とりアートスペシャルコンサート「鳥たちの音楽祭」～FLY HIGH!～)

新生とりアートになって初のメイン事業は、県民からのアンケートに基づき、そのニーズに応えての音楽祭であった。

ジャズがメインのコンサートであるが、第一部ではゴスペルからブルース、ロックと幅広いポピュラーミュージック演奏が、その歴史解説とともに披露された。第二部では、クラシックオーケストラの演奏、子どもたちによる「ふるさと」合唱などがあった。多数の地元アマチュア音楽家が、プロ奏者とコラボレーションして作り上げたステージは、ジャンルの幅広さや演奏の質、またステージ作りの工夫や奏者の熱気など、観客の期待に十分応えるものであった。観客アンケートを見ても、これまでのメイン事業より満足度が高い。観客の中には、身を乗り出したり、手拍子・足拍子をとる姿も見受けられ、コンサートを楽しんでいる様子が見えられた。

成果としては、まず、これまで小さなステージや街頭で演奏していた地元のメンバーが一堂に会し、大きなステージでの演奏を成功させたことであろう。多くの観客を前にしての演奏は、喜びと自信につながったはずである。評価報告会でも、実施者から「大きなスタート地点に立つことができた」という発言があった。「音楽のまち・鳥取」を創造していく活動が、ここを起点にして、活発に息長く続いていくことを期待する。

聴衆のほうでも、地元(鳥取市とその周辺)にこれだけの演奏家が存在し、質の高い音楽活動をしていることを知ることができたのは大きい。

専門家評価でも、本事業は高い評価を受けている。特に、これまでの課題——題材が古典に偏っている、中央のプロに頼りがちである等——をよく踏まえた上で企画・運営が進められた点、音楽の普及・人材育成への貢献が大きかった点については、私たち委員会も同意である。

一方で、課題もいくつか挙がった。幅広いジャンルの音楽を盛り込んだ結果、総花的な印象になったこと、広報活動の遅れからか、事前の盛り上がりには欠け、来場者が目標を下まわったことなどである。「ふるさと」の使用については、「新鮮味がない」「鳥取らしい曲」と意見が分かれたが、そろそろ次の展開を考えるべきという声も多かった。

また、多額の予算(県費)を使ったコンサートのわりに、内容・広報がもの足りないという指摘もあった。これは、中部地区事業の中で、ごく少ない予算にもかかわらず、倉吉未来中心大ホールを満杯にした「倉吉こどもハッケン伝」があったため、どうしても比較してしまうのだが、メイン事業の今後を考える一つの例ではある。より質の高い催しを追求すると同時に、県民に広くアピールする努力を、多額の予算をかけた事業だからこそ求めていきたい。

(2)とりアート地区事業

今年度も、東部・中部・西部において地区事業が開催された。この事業は、主に文化芸術の裾野の拡大と、人材育成を目標とする。各地区で活動しているグループや個人が日頃の成果を披露したり、ワークショップを通じて、来場者に文化芸術の楽しさを味わってもらうものである。

これまでの課題として、集客の少なさが挙げられてきた。特に、若者と男性の参加が少ないということが指摘されてきたが、今年はその変化があった。中部地区事業では、来場者が目標を大幅に上まわり、子どもを連れた家族の姿が目立った。西部地区事業でも、若い子育て世代の来場者が多く、むしろ高齢者の姿が少ないという状態であった。

これは、それぞれの実行委員会が、プログラムや広報に工夫をこらし、努力された成果であろう。中部地区事業では、「次世代育成」というコンセプトが明瞭で、大ホールでの「倉吉こどもハッケン伝」をはじめ、アニソンライブ、次世代育成コンサート、保育専門学院生によるステージなど、子どもや若年層向けの催しが組まれた。ワークショップも子どもが楽しめるものが多く、アトリウムステージでも十代の出演が多かった。食のブースも充実し、家族連れで一日楽しむことのできる事業だった。

西部地区事業では、昨年よりもワークショップが充実し、子どもが親といっしょに楽しめる催しとなった。中学生の吹奏楽選抜チーム演奏、高校生の伝統芸能・書道パフォーマンスなど、地域の中・高校生の活動を応援する企画が目立った。西部地区事業の実行委員会では、実験的な試みをしようとしていると聞く。ワークショップとステージの時間を分けたり、ステージをフラットなものにしたのも、その一例だろう。そうした試みが功を奏して、若い世代の集客につながったと思われる。

東部地区事業は、内容・集客においてややもの足りないところがあった。シンプルで良いという評価の反面、ワークショップが少なく、食のブースが寂しいという指摘があった。しかし、障がいを持った人たちのステージを作ったり、その作品を展示する企画は、他地区にはないものとして評価できる。イオンと連携して、イベントに広がりを持たせようとした試みも、まだ両会場がうまくつながっていないとはいえ、評価すべきだろう。今年度は実行委員に大学生が数名加わって、自由な発想がうかがえたこともあり、来年度に期待したい。

前年度の評価報告書で、共通の目標を設定すべきではないかという議論があると書いたが、今年度の地区事業では、各地区の個性が発揮されつつあると感じた。委員会でもそういう意見が多かった。またそれぞれの実行委員会が、前年度の課題をきちんととらえ、克服する努力がなされている。良い事業として育ちつつあるといえるだろう。

(3) 舞台系事業

音楽ライブ、日本舞踊、和太鼓コンサート、謡曲仕舞、ボールルームダンス、演劇、子どもたちのピアノコンサート、第九公演と、幅広いジャンルのステージがあった。

質については、多少のばらつきはありながらも、各事業とも概ね達成されているという評価である。特に、30年近く続く「第九公演」は、年を追うごとに充実したコンサートになってきており、今年は鳥取での公演だったが、他地区からも聴きにきてほしいという声があった。

昨年課題として指摘した集客に関しては、実施者ごとに努力され、昨年より良い結果となった事業が多い。ただ、伝統芸能や実施者に高齢者が多い催しでは、おのずと限界があるものもあるようだ。そうしたなかで発表を続けられている団体には敬意を表しつつ、これからも頑張ってくださいと申し上げたい。

今年度、本委員会で課題に挙げたのは、鑑賞マナーの悪さということである。上演中の出入り、飲食、立ち歩きやおしゃべりなど、せっかくのステージを損ねるような観客(あるいは出演者自身)の振る舞いが目についたという声が多かった。

実施者の方々には、ぜひ、鑑賞マナーの改善に取り組んでいただきたい。場内アナウンスによる呼びかけ、ドアマンの配置、出演者の席確保などによって、ある程度改善できるのではないだろうか。どんなふうにステージを観てもらいたいかを伝えることも、演目同様大事なことだと考える。鑑賞者も出演者と同様にステージを作るのだという認識は、県民の文化力向上にもつながるはずである。

(4) 展示系事業

57回目を迎えた県展は、その歴史とともに、県内最大の美術展覧会である。選考基準や選考過程の公開、県外審査員の導入など、審査の透明性に努力してきている。またギャラリートークを実施したり、展示目録に審査員の講評をつけるなど、より親しみやすく、わかりやすいものにしようとする取り組みは評価できる。

しかし、審査の公平性・透明性に関しては、アンケートでもいまだ疑問の声があり、多くの県民が納得できる審査になるよう、一層の努力を願いたい。

今年度は、各部門に複数の県展賞授与があったが、最高賞である県展賞が複数出るとは、鑑賞者にとまどいを与え、審査の権威を下げるのではないかという指摘もある。

鑑賞する立場からいえば、書道作品は何が書かれているのかわからないという意見も、毎年出ている。ぜひ釈文を付けてほしい。

長い歴史があり、県民の財産となっている県展だからこそ、その位置に安住することなく、作品の質・展示方法・広報活動などの一層の充実を期待したい。

(5) 文芸系事業

川柳・短歌・俳句といった文芸系事業に共通の課題は、主催者・参加者ともに高齢化が進んでいるということである。ともすれば先細りが懸念されるジャンルであるが、各会とも小・中・高校生からの作品募集をおこない、優秀作を表彰して、次代の担い手を育成しようとしている点は、大いに評価したい。

また、このジャンルは結社やグループに所属している人が多く、どうしても内向きの事業になりがちである。本委員会では、この点を課題として指摘してきた。それを受け、見学希望者を無料にしたり、初心者コーナーを設けたり、有名作家による講演会を取り入れたりしている。

こうした努力は、まだ必ずしも集客結果につながっていないが、参加した委員からは「面白かった」「もっと多くの人に来てほしい」という声が多く、一般県民の参加をうながせる事業のはずである。

今年度の課題として挙げたのは、各事業ともに運営の不便があったということだった。会場設定、機器の扱い、表彰式の段取りなどである。これらは、事前の調査やリハーサルによってクリアできるものであり、来場者のためにも、会の発展のためにもスムーズな運営を望みたい。

高齢化が進むという点についていえば、社会全体が高齢化しているなか、50代・60代といった熟年世代にアピールしていくのがいいのではないかという意見が、委員会では多く出された。

広報については、年ごとに工夫がなされるようになってきている。なかでも川柳大会は、チラシや新聞広告を効果的に使い、多くの参加者があった。しかし、いまだ多くの県民に届いていないのも確かであり、さらなる努力を望みたい。

3 今後の評価に向けて

今後の評価について話し合うなかで、主な論点になっているのは次の二つである。

(1) 目標の見直し

前年度の評価報告書のなかで、「高い目標設定の場合には評価が低くなってしまいうというジレンマがある。逆に目標が低ければ達成度が上がる。設定目標そのものを評価していかなければいけないのではないか」と書いた。

こうした目標そのものを問う意見は、今年度の評価委員会のなかでもしばしば挙げた。現在、大項目・中項目目標についてはあらかじめ設定されているが、これらの目標のなかには、抽象的すぎたり、活動実態と合わないものが含まれているのではないかという声もある。

とりアートを含む県支援の文化事業は、いずれも10年以上の実績を積んできており、実施者のみなさんは、自分たちの事業の成果と課題について、ある程度認識されていることと思う。これは、本委員会が示した成果と課題を、報告書や評価報告会を通じて受け止めていただき、着実に改善がなされてきていることから、そう判断している。手前味噌かもしれないが、本委員会の声が届いていると感じることが、私たちにとってはうれしく、微力ながらも事業向上に役立ちたいと思っている。

そうした点をふまえ、今後は事業団体ごとに、大・中項目の目標設定をおこなってもらえるべきではないかという方向で、現在議論が進んでいる。大項目については県の指標であるので、具体的には中項目になるかもしれないが、いずれにしても、各実施団体が自らのクリアすべき目標を把握し、段階的に成長できる目標設定となるよう、本委員会でも議論を重ねていきたい。

(2) 広報について

一つの団体が全県的な広報をおこなうのは難しいという声は、以前からあった。とりアートで一括してテレビ広告などが出せないか、という声も、昨年の評価報告会で出ていた。

とりアートの広報に関しては、広報部会が担当されているが、これまでその活動を本委員会が評価することはなかった。その点を見直し、広報部会の活動も評価に入れることで、広報の成果と課題を検討すべきというのが、現在議論されている内容である。広報部会では、ポスターやパンフレットなどの製作に尽力されているが、広報戦略についてはどうなのだろうかという声があり、情報を交換することで、効果的な広報をさぐることができればと思っている。

ただ、これは広報部会だけの話ではない。やはりそれぞれの団体が努力すべき課題である。ホームページやフェイスブックなど、インターネットを使った広報は、徐々にではあるが有効に活用されるよう

になってきている。報道機関への働きかけも一部なされているが、まだ積極的に活用できている団体は少ないようだ。報道関係者の声として、チラシやパンフレットを持ち込んで掲載してくれと言われてもなかなか取り上げられない、目玉になるテーマやストーリーがほしいということを書く。そうした点を練り上げていくのも、広報の仕事であろう。

なお、人材育成部会もこれまで評価の対象に入っていなかったが、良い取り組みをされているという情報があり、広報部会と同様に評価していきたいという考えである。

以上、今後の評価課題について述べた。

前年度に模索状態が続いていると書いたが、それは今年度も続きつつ、しかしいづらか方向性が見えてきた気がしている。各事業が何をめざし、何を課題としているか——本委員会はそれを理解しようと努め、しかし実際の事業で見た成果と課題については、忌憚なく指摘していくべきと考える。委員一人ひとりには専門家ではないので、あくまで一般県民の視点ではあるが、その視点から出た意見を、実施者のみなさんに受け止めていただいていることをありがたいと思う。評価報告会は、顔の見える相互理解の場として、今後いっそう意義あるものになっていくだろうし、それ以外の場でも、情報収集に努めていかなければならないと考えている。

最後に、「評価委員会は上から目線」という声は承知しており、委員会にも委員それぞれにもそんな気持ちは全くないのだが、一方で評価という仕事は、そういうふうにとられても仕方のない面があると思う。理解と連携を深めつつ、しかし一定の緊張感も保つ必要があるだろう。これからも事業実施者のみなさんとともに、事業の向上、県民の文化活動活性化のために尽力していきたい。

平成26年3月

鳥取県文化芸術事業評価委員会

会長 松本 薫

II 実施結果概要

1. 実施事業一覧

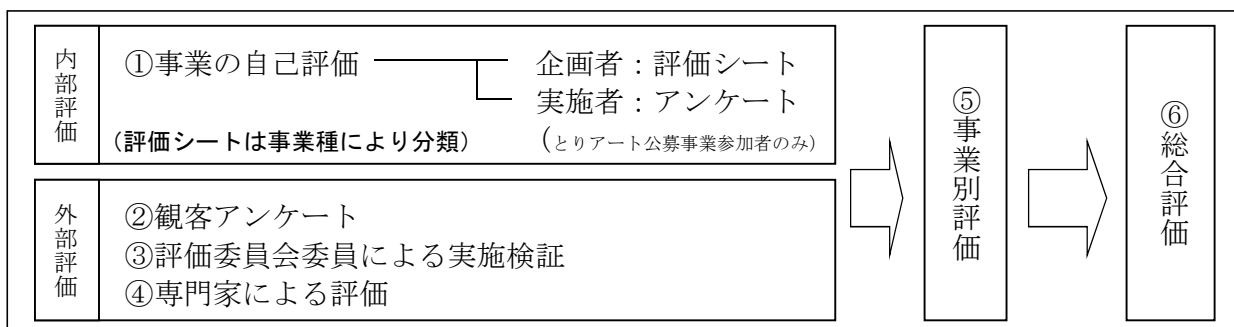
<平成24年度> (平成25年1月～3月に実施された事業)

番号	主体	団体名	事業名	実績			
				入場者数 (人)	アンケート配布枚数 (枚)	アンケート 回収率	満足度
1	とりアート 実行委員会	西部地区企画運営委員会	第10回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート 西部地区事業	5,897	2,736	30.0%	90.9%
2	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県美術家協会	第17回鳥取県美術家協会作品展	840	840	23.2%	99.5%
3		TDAデザインクリエイショ ン2012	鳥取県デザイナー協会	1,000	1,000	7.4%	82.4%

<平成25年度> (平成25年4月～平成26年1月に実施された事業)

番号	主体	団体名	事業名	実績			
				入場者数 (人)	アンケート配布枚数 (枚)	アンケート 回収率	満足度
1	鳥取県	鳥取県文化観光局文化政 策課	第57回鳥取県美術展覧会	9,415	9,415	9.2%	92.3%
2	とりアート 実行委員会	とりアーツスペシャルコン サート実行委員会	とりアーツスペシャルコンサート「鳥た ちの音楽祭」～FLY HIGH!～	954	954	24.6%	85.1%
3		東部地区企画運営委員会	第11回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート 東部地区事業	6,512	2,211	13.9%	87.3%
4		中部地区企画運営委員会	第11回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート 中部地区事業	10,803	2,180	19.9%	97.7%
5		西部地区企画運営委員会	第11回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート 西部地区事業	7,843	2,850	28.4%	92.8%
6		鳥取音楽座	音楽日和ライブフェスティバル鳥取20 13 vol.15	2,000	300	61.3%	94.0%
7	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県川柳作家協会	第37回鳥取県川柳大会	112	112	61.6%	69.6%
8		鳥取県歌人会	第42回鳥取県短歌大会	73	73	37.0%	88.9%
9		鳥取県日本舞踊連合会	吉月をどり	650	650	20.0%	97.7%
10		鳥取県和太鼓連盟	鳥取和太鼓連盟コンサート 「和太鼓ふるさとの響2013」	590	590	32.9%	89.2%
11		鳥取県謡曲連合会	鳥取県三流合同謡曲仕舞大会	30	30	50.0%	6.7%
12		鳥取県ボールルームダン ス連盟	「ダンスの日」記念ダンス交流会	100	100	44.0%	93.7%
13		鳥取県俳句協会	第18回鳥取県俳句大会	118	65	73.8%	89.6%
14		鳥取県演劇連盟	第40回鳥取県演劇連盟合同公演	302	302	55.3%	63.5%
15		鳥取県ピアノ指導者協会	ヤングピアニストコンサート2013	222	222	21.2%	93.6%
16		県民による第九公演実行 委員会	県民による第九鳥取公演	1,150	1,150	15.3%	99.4%

2. 評価の体系



第10回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート西部地区事業(西部地区企画運営委員会)

平成25年2月10日(土)・11日(日) 米子コンベンションセンター

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の 拡大	県内の文化 芸術の裾野 の拡大	イメージづくりや統一テーマの設定により「とりアート」全体像の定着を図り、テーマにちなんだ企画を実施します。	達成 ・「つたえる・つながる・かんじる」のテーマは全体を通して実践なされた。 ・実行委員自体の認識を高め、それぞれがテーマに基づくイメージアップに努めた。 ・公募事業選定は、テーマに沿った企画内容をプレゼン形式で行い、参加者の意識統一を図った。	概ね達成 今回のテーマ、「つたえる・つながる・かんじる」を全体の企画に活かすために取り組まれた、会場をひとつにまとめる、公募者のプレゼン、発表者が体験ワークショップを行うなどの工夫は評価できる。惜しむらくは、そうした取り組みが個々の発表や展示内容で感じる事ができなかったことである。
		実際に触れて体験できる機会、鑑賞できる機会を提供します。	達成 ・流木アートやデジタルアートは来館者の人気の的であった。 ・会場すべてをそのように仕立てて参加者の満足度を高めた。 ・他ジャンルの活動が一堂に会することで、新たな芸術活動に触れきっかけが与えられた。	概ね達成 自主企画の流木アート、デジタルゲーム、陶芸やステージ、展示、ワークショップ出演者が、鑑賞者の体験ワークショップを行うなど体験型ワークショップが多くあり良かった。鑑賞者がただ単に鑑賞するだけでなく鑑賞し体験するそうした企画はテーマと結びつくものとして評価できる。残念なのはそうした考えがすべての企画に共有されておらずバラバラ感につながっているところであり、他ジャンルの活動が一堂に会することで「会場内はゴチャゴチャしていた」とのアンケートの声のようにそれぞれに集中できなかったことだ。
	県民誰もが 気軽に文化 芸術に触れ る機会 の提供	子供が気軽に体験できる機会を提供することにより家族との繋がりを深める企画を実施し参加者層の幅を広げます。	達成 ・招へいしたワークショップは親子での参加、また同じ会場内で思い思いに過ごす場所の確保で滞在時間の延長が見られたりなど満足度が高かった。 ・デジタルアートは大変子どもに喜んでいただけの企画だった。	達成 自主企画の体験型イベントの流木アートは、家族連れで体験する姿も多く見られ体験型として良い企画だった。ただ、デジタルゲームは子どもの遊び場になっていたというように、本来のからだを動かすゲームとしての斬新さは見受けられなかった。子どもたちをはじめ体験者に体感させる指導、誘導など操作、運営上の問題があったと感じた。せつかくの企画ながら残念であった。また、ペーパー・スカルプチャー、けしごむはんこなどのコーナーにはいつも子どもや家族の体験者がおり良かった。子どもたちの参加は、来場者の数の中で多かったと言える。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	県内の文化団体と積極的に連携(出演者の相互交流)し、つながりを深めます。	概ね達成 ・中学生の吹奏楽は素晴らしい演奏であり、吹奏楽連盟との連携が図られた。 ・オープニングは、地元文化団体、地元出身者とのコラボなど毎年新しい企画で定着している。	達成 このところ開幕行事として定着している米子八景を今年はとっとり邦楽合奏団とダンスとのコラボで行い、八景の絵画・写真展も併設した。中学生選抜吹奏楽の演奏も内容とともに鑑賞者の増加にもつながっていた。東部からの傘踊り、日本舞踊、中部からのフードコート出店など他地域からの参加もあった。
		事業テーマ、コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。	達成 ・自主企画はもとより、公募企画の参加者にもテーマ意図を明確にしてそれに沿った発表の場として会場が有効に利用されていたと思う。 ・テーマに沿った企画をプレゼンすることで、参加者にテーマの意識付けができた。	概ね達成 テーマはわかりやすく、「いつものまちで文化する」という従来からの考えにマッチしていた。平土間での縦舞台など斬新さもあったが、そうした意図が出演者に十分理解されていたり、具体的な企画内容では、テーマを十分に感じることはできなかった。
		公募企画者に対しプレゼンテーションでの審査を行う等、質の高い事業となるよう工夫を行います。	達成 ・今回は初めてプレゼン形式で行ったが、プレゼンも表現であり、演出である。自分たちの演目について考えてもらう良い試みだった。 ・プレゼンで優秀な事業と認められた場合は、地区自主企画事業に格上げし、参加者のモチベーションを高める工夫をした。 ・とりアート賞を取り入れ、質と創作意識の向上を狙った。	一部達成 公募者はプレゼンを行い選んだとのこと。地域の文化団体へのプレゼン力向上には役割を果たしたかもしれないが、今回のプレゼンで全体の公募企画の内容が従来のものより質を高めたとは感じられなかった。なぜ選ばれたのかテーマとの関連を疑問視される展示も見受けられた。
	良質な作品の提供	県内で実績のある活動者を活用する企画を実施します。	達成 ・自主企画事業では、邦楽合奏団など、実績のある団体を活用しただけでなく、他ジャンル団体とのコラボもあり鑑賞者に新鮮さを感じていただけた。	達成 ステージはすばらしいものが多かった。特にオープニングのとっとり邦楽合奏団はこのところ定着している質の高い団体である。他団体とのコラボも毎回期待できるものとなっている。こうした団体に続くものへの試みもぜひ取り組んで欲しい。
		過去に実施された優れた企画を再演化し、更なるクオリティの向上を目的とした創造作品に取り組みます。	概ね達成 ・米子八景と他ジャンルのコラボは、クオリティも高く西部地区の顔となっている。 ・過去に参加された団体があったが、せり出しステージに合わせた演出をされるなど工夫が見られた。	概ね達成 米子八景をとっとり邦楽合奏団とダンスとのコラボで再演化されたことは評価できる。更に進化させ、とりアートで生み出された西部地区の顔として中核行事となるように取り組んでもらいたい。ただ、会場が落ち着いた雰囲気のないためその成果が薄れてしまったことが残念である。
	人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	活動者等を育成するための支援制度(助成制度、ワークショップ)を設けます。	一部達成 ・とりアートからの助成金により活動発表できた団体はあったと思う、その意味で、地域文化を支援する役割を果たしている。

人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	地域や郷土芸能実践団体や高等学校郷土芸能部などの連携により、地方に残る貴重な文化の後継者や担い手を育成します。	達成 ・高校生や中学生の伝統芸能の発表は来館者に好評を得た。 ・地域郷土芸能の発表の場として、出演者また鑑賞者の満足度は非常に高かったように感じる。 ・今回は、高校の郷土芸能部の参加があり、会場も盛り上がった。客席から登場するなど工夫も見られた。	概ね達成 中学生や高校生が取り組む伝統芸能を企画したことは評価できる。高校生による神楽、さんご節はどれも素晴らしかった。しかし、法勝寺歌舞伎については、縦型舞台の使い方、音声の問題など十分にその効果が活かせなかった。伝統芸能に取り組んでいる団体の参加にとどまらず、どのようにかかわれば担い手の育成になるのかという面での掘り下げも考えて企画していただきたい。
		鑑賞者の芸術文化活動につながるようなワークショップを実施するなど、鑑賞者を活動者に育成するための工夫を行います。	概ね達成 ・鑑賞者の感じる力を育てる意味で自主企画公募企画ともにバランスよく実施できたと思う。 ・ステージ発表をした団体がワークショップを企画するなど双方向感が感じられた。	概ね達成 ステージ発表団体や展示団体がワークショップを行うなどは鑑賞者が体験することとあわせてよい試みであった。できればこうした試みがすべてのステージや展示で行われればよりテーマが活かされたといえる。
鑑賞者の育成	幼児期における鑑賞・体験機会の提供など、若年層の鑑賞者を増やします。		概ね達成 ・デジタルゲームと落書きコーナーは人気があった。 ・親子で参加できる流木アートワークショップなどは、事前広報に力を入れ多くの参加者を募ることができ、参加者の評価も高かった。	達成 流木アートやデジタルゲームなど子どもたちや親子での体験機会があり、たくさん親子づれがあった。ステージ発表やワークショップの内容に結びついて若い鑑賞者をはじめ幅広い鑑賞者が見受けられた。
	質の高い公演・ワークショップ等を行い、鑑賞者のレベルアップを目指します。		概ね達成 ・質の高い公演やワークショップは随所に見受けられた。 ・プレゼン形式にすることで、ある程度の質を担保することにつながったと思う。	一部達成 ワークショップをステージ発表団体や展示団体が行うことで鑑賞者が体験でき良い企画であった。
	作品制作過程を子どもたちに見せる等により、育成を図ります。		概ね達成 ・特に流木アートは高い創作性を持ったプログラムであり、今後につながる事業であった。 ・普段あまり見ることのないワークショップ、展示などが揃っていた。	概ね達成 流木アートやペーパー・スカルプチャー、けしごむはんこづくりなど、子どもたちが喜んで参加し、制作を楽しんだ企画があった。ただ、デジタルゲームは本来の目的を達成できたとは思えなかった。
アートマネージャーの育成	昨年度の未達成事項を再確認し、質の向上に努めます。		概ね達成 ・昨年度の反省を踏まえて今年度はレベルが高いものであった。 ・参加者にプレゼンの場を作り意識を高めるきっかけとなった。 ・昨年に引き続き異なるジャンルのコラボレーションに挑戦し質の高いステージであったように思う。	概ね達成 会場の分散の問題を一か所に絞ることにしたこと、ステージ発表団体や展示団体がワークショップを行うなど鑑賞者が体験すること、昨年度の未達成事項への取り組みが見られた。

人材育成	アートマネージャーの育成	資金調達が可能なら人材を育成します。	一部達成 ・今後の課題である。 ・今年初めてスポンサーを募集したが、小口だからこそ集まったと思う。このことを本気で進めようとする、地方都市では企業メセナ活動をしている企業は皆無に等しいため、どうしてもスポンサーメリットを求められることになるので、程々でよいと思う。	一部達成 難しい課題に取り組んだことは評価できる。パンフレットに広告を得るなど自己資金の獲得に努力されたことがうかがえる。広告以外での資金調達の工夫、試みに今後も挑戦していただきたい。
		アートマネージメントセミナーなどへ積極的に参加し能力向上を目指します。	一部達成 ・三人体制で実施したアートマネージャーの活躍は大いに評価できる。 ・まだまだ各団体のアートマネージャーとしての役割の意味が理解されていないのもっと積極的に各団体からその役割の人材が誕生する必要性を感じる。	一部達成 複数でのアートマネージャー配置やセミナー参加などは評価できるが、せっかくのダンスコンテストへの参加者が4組しかなかったこと、プレゼンによる参加の試みはテーマの鮮明化や浮き彫りにすることには結びついていないこと、全体にばらばらな感じを受けるなど、努力が成果に結びついていない感じがする。
	技術者の育成	専門家との会場作り等での交流を通して、参加者の技術力の向上に努めます。	一部達成 ・参加者に準備、片付けを手伝っていただくことで、会場設営を経験できる良い機会になったと思う。	一部達成 事業参加者が会場の準備、片付けを一緒にすることで体験と交流にはなり、関心を持ってもらうことにはつながったかもしれない。しかしながら、技術力の向上についての試みや取り組みは見受けられなかった。
	支援者の育成	広報・フードコート・子ども向け企画などを通して文化芸術に親しみをもち、人を増やす工夫を行います。	達成 ・すべて一会場に集約でき、来館者の好評を得た。 ・フードコート、デジタルアートなど芸術に対して敷居を低くする企画があり集客につながったと思う。	概ね達成 プログラムはデザインもよく親しみが持てた。企画としては、ダンスコンテストと米子市のダンスフェスティバルの同日開催による参加者の少なさなど折角の良い企画が活かされなかった。メインになる舞台の芸術性を高める面と賑わいつくりとのあり方が中途半端な感じがした。フードコートは会場入り口と会場舞台付近に設置されていたが、すべてを同一会場で行うこととあわせて再検討が必要ではないか。
	育成した人材を活用する場の提供	参加者同士が横のつながりを築ける場を提供します。	一部達成 ・事前準備から後片付けまで事業参加者全てで行い一体感があつた。 ・この機会に他ジャンルとのつながりを持った出演者も見受けられる。 ・自主的につながりを持つ団体はあつたが、主催側でつながりを持つ場を提供しても良かった。	一部達成 事業参加者が会場の準備、片付けを一緒にすることは良い試みといえる。事業参加者のつながりづくりのためにそれぞれの参加者がお互いに交流できる機会や協働して事業内容の充実を図るコーディネートが求められる。

<p>人材育成</p> <p>育成した人材を活用する場の提供</p>	<p>次年度にまたがる企画など、中長期的プランを検討します。</p>	<p>概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けての方向性が見えてきたように思う。 ・今回は会場全体で「いつものまちで文化する」を感じることができた。今後もこのコンセプトを続けて、会場に新しい文化のまちを創っていければ良いと思う。 ・公募事業者の中には来年の計画を既に企画しているものもある。 	<p>一部達成</p> <p>「いつものまちで文化する」というテーマをこれからも追求することを歓迎する。地域事業のあるべき姿を今後も模索していただきたい。せっかくの企画でも地元で開催されるものと同日開催になり、結局参加者が少なくなったことなどは、地域の関係者への理解と働きかけが上手くできていない、企画側の独りよがりな発想と言われてもしかたがないと言える。実施者の自己評価ではこのことに一言もふれられていない。取り組みをきちんと総括することから方針は見えてくるものであることを言うておきたい。</p>
<p>総括</p>		<p>71.4%</p>	<p>61.9%</p>

【成果】

- ・さまざまな会場での事業から、一つの会場に集中しての事業展開など、従来の取り組みから工夫していることは評価できる。このたびの試みを十分に総括し従来の良いところと合体させた次期内容の充実につながることを期待したい。
- ・コンベンションホールの中央にステージを作り、どの方向からでも見られるようにしたのは良かった。観客との距離が縮まり、一体感が生まれた。
- ・米子コンベンションセンターの「多目的ホール吹抜」の空間をメイン会場として使ったことは、人の流れを集中し、賑わいも生み出した。また、交通アクセスも良かった。
- ・会場の案内など、共通デザインで表示されており、見やすかった。
- ・オープニングでの「米子八景」は他ジャンルとのコラボレーションが追求され、一定の成果を見ることができた。他ジャンルとのコラボが毎回楽しみになっている。今後も続けてもらいたい。
- ・中学生の吹奏楽や高校生の伝統芸能をメインに押し出し、若者に活躍の場を与えた。見るほうも元気や希望をもらった。後継者・担い手の育成につながっていくのではないかと期待したい。
- ・デジタルアートや流木アートなど幅広いジャンルを取り上げ芸術文化のすそ野を広げている。子どもや親子で参加し体験できる企画は良かった。
- ・ステージや展示の参加者が鑑賞者へのワークショップを連動して行う企画は、参加者を楽しませ、観客アンケートでも好評だった。今後もこうした取り組みを進めていただきたい。
- ・とりアート賞を設け、クロージングで授賞式がある流れは、出展者の質の向上にもつながり、良い企画だと思う。
- ・高校生も出店するなどフードコーナーも昨年より充実しており、テーブルや椅子が置かれていたので、ゆっくりすることができた。
- ・アンケート回収率 30%は、まずまずの良い回収率。記入コーナーが分かりやすく設けてあり、書きやすい環境が整えられていた。アンケート提出に伴うクジも、子どもにも楽しめる工夫で良かった。
- ・来場者の満足度も 91%と高く、9割以上の満足度があったという点は良かった。
- ・全体として、昨年までの反省をふまえ、新生とりアートとして、あらたに取り組もうという意気込みが感じられた。

【課題】

- ・好企画であったダンスコンテストが米子市のダンスフェスティバルと同日開催となり参加団体が少なく寂しいものであった。地域の団体との連携の問題として指摘しておきたい。
- ・会場をひとつにしたことで見やすさ、賑わいつくり、参加しやすさはあったかもしれないが、同じ空間でワークショップや展示などが同時展開されて人の動きがあり、中央の舞台での発表が落ち着きのない雰囲気での発表となり、舞台芸術としての質の担保や体験との兼ね合いが残ったといえる。観客席の作り方も含め今後の工夫に期待したい。
- ・中央ステージの音が大きく、展示やワークショップのコーナーでは声が聞き取れなかった。またホワイエにもステージがあったが、そちらは観客もまばらで、出演する人が気の毒だった。
- ・従来と比べて展示、ワークショップが少なく、内容面でもこれがどうテーマとつながっているのかわからないものもありものたりなかった。
- ・フードコートが会場外と舞台後方と2か所に別れていたがつながりが感じられなかった。会場外、前での地区事業の雰囲気作りが弱かった。
- ・そろそろイベント定番の最後に全員で歌を歌って終わる以外の新しいスタイルを考えることも必要ではないか。

- ・とリアート賞を設けるのは良いことだが、授賞式の中で、どこがどのように良かったから選ばれたのかの説明が無い。観客票もあった方が良いのではないか。
- ・当日配布の見開きのリーフレットはカラフルで見やすかったが、事前配布のチラシはまとまりを欠いて分かりにくく工夫が必要であった。
- ・地区事業の基本的なコンセプトが見えてこない。何か象徴的なメインとなる事業が必要ではないか。



第17回鳥取県美術家協会作品展(鳥取県美術家協会)

平成25年1月27日(日)～2月3日(日) 倉吉博物館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	作品展において自分自身と他出品者と絵の比較を通して、会員相互の研鑽を図り、もって質の高い作品制作、展示を目指します。	概ね達成 絵描きは他人と自分の絵を比較することにより作品の欠点等が見えることがある。今回も作品を観ながら、会員等からの批評等を参考に、次の作品発表には更なる創作意欲をかきたて、絵の品質を高める作品を目指す。	概ね達成 質の高い作品制作、展示を目指すという点においては概ね達成している。一方で全体的な質の面而言えば、向上の余地があるように見受けられる。次年度は「目指す」から「行う」に目標設定してほしい。会員相互の研鑽については、どのような研鑽が行われたのかが目に見えてこない。
		鳥取県内で高いレベルを有する日本画、洋画の作家による最新活動の展示を行います。	概ね達成 日本画8点、洋画80点、計88点の作品展示。88名/102名(会員数)≒86%。14名は高齢、病気のため不出品。	概ね達成 「一定のレベルを有する」であれば達成だが、全ての作品が「高いレベルだったか」というと作品によって差があったように感じた。出品していない会員が1割以上あったが、せめて1割を切ってほしかった。
	県民の参画支援	作者名、タイトル、画材をキャプションに記入するなど、鑑賞しやすい展示となるように気を配ります。	達成 キャプションの大きさを変更(はがき/2 ⇒ B5/2判)作成したため、作者、題名が今まで以上に見やすかったと鑑賞者から評判が良かった。	達成 見やすいキャプションでありその目標に対しては達成したといえるが、それは最低限するべきことであり当たり前のことではないかという気がする。号数が30号で揃っていたのはユニークだった。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	普段聞くことの出来ない「ギャラリートーク・自作を語る」を実施し、制作者の意欲・苦労話など話し、鑑賞者の関心を集めます。	達成 今回の作品展は中部の倉吉博物館のため、中部の鑑賞者が多い。中部会員2名によるギャラリートークを実施。鑑賞者は絵描きの苦労話等に熱心に耳を傾けていた。	概ね達成 中部会員の方2名によるギャラリートークがあったが、作者の作品に対する意図何を訴えたかったのかが伝わってきた。好評だっただけに初日の1回だけというのは惜しい。あまり行われることのなかったギャラリートークを実施したことについては拍手を送りたい。
		ポスター・チラシによる周知のほか、県・報道機関に後援依頼を得ることにより、広く県民への周知を行い、鑑賞機会の拡大を図ります。	概ね達成 チラシ、案内状による県、各教育委員会への周知のほか、報道機関、画材店、画廊等に郵送及び持参し、作品展の開催及び鑑賞者拡大を図った。名義後援関係(20ヶ所)、画材、事業所、報道関係(48ヶ所)計68ヶ所に送付。	概ね達成 チラシ、案内状を各方面に送付して鑑賞機会の拡大に努められたようだが、まだ存在自体を知らない人も多い。しかし入場者数が目標の8割とまずまずだったので、概ね達成とした。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	高レベルの作家には入会要請を行います。	概ね達成 県展等に3回以上の入選レベルを持った作者2名の方の承諾を取り、入会依頼を実施した。来年度も積極的に勧誘を行う。	概ね達成 入会要請の実施については概ね達成。高レベルな作家の加入要請と並行して若手作家の新規入会を促し、活動を通じたレベル向上という「育成」にも取り組まれたらどうか。

育成		描くことの少ない裸婦研修会(東部、中部、西部)を実施し、一般の方の参加も募ります。	達成 東・中・西部の3ヶ所で実施。参加者は会員39名、一般参加者37名と、ほぼ同数の一般の方の参加増に貢献した。	概ね達成 研究会には参加していないので評価は差し控えたいところだが、一般参加者が37名もいたことから後継者の育成という面で寄与したのではないかと思う。今後は単に研究会の実施にとどまらず、ミニ展覧会などに期待したい。
		総括	81.0%	71.4%

【成果】

- ・県内の作家の活動発表の場として大きな役割を果たしている。それも17回と継続してやってきたことも評価したい。
- ・個展と異なり多様な作品を鑑賞できるのも意義がある。
- ・入場者数も目標の8割以上あり量的な成果もあった。
- ・ギャラリートークを企画したのも良かったし、一般の人の参加者が多かったという研修会の開催も評価できる。
- ・アンケートの結果も満足度が高かった。

【課題】

- ・今回の作品展よりも、自己評価にもあるとおり、会員の高齢化等によって組織の活動が停滞を招きそうな点が最大の課題ではないか。
- ・作品展を継続していくためにも活動を活性化するためにも会員の若返りは重要である。来年度からは若手活動者の加入や育成につながるような活動を、事業目標の設定に取り入れてほしい。
- ・成果はすぐには目に見えないかもしれないが、他のジャンルの団体では、子どもや若者の活動者育成にも力を入れているところがある。展示系の他の団体で、すでに取り組んでいる団体があれば参考にしながら模索してほしい。
- ・例えば、会員の広いネットワークを活かした積極的な勧誘活動に加えて、会員外も含めた若手作家の顕彰制度や若手会員育成システムの構築(定期的な指導教室)などにも取り組んでみられては。
- ・その場合、いかに広報、告知をしていくかも重要となる。



文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	地域に根ざした題材として、鳥取の酒文化の創造にチャレンジします。	達成 鳥取地酒の新しい世界観・文化性を展開できた。	概ね達成 鳥取の酒文化という題材を取り上げたことは面白く、改めて認識することができる。また、酒蔵が抱える問題点を踏まえ、デザインの観点から新しい手法を模索するものだった。ただ、このテーマに対し、若い人たちがどれほど関心が持っているかは疑問。
創造	質の高い文化芸術活動	「鳥取のお酒の魅力」の表現について競い合うことで、新しいデザインの可能性を探求します。	概ね達成 今までに知らない地酒のデザイン表現が多く見られた。	概ね達成 参加作品は、単にお酒のデザインだけでなく、お酒を通した新しいライフスタイルの提案もなされていた。これまでのイメージを覆すような、おしゃれでカラフルな作品が多く、お酒に興味がない人でも惹きつけられるものがあった。
	県民の参画支援	デザイン公募を行うことで、広く県民が文化芸術事業に参加する機会を提供します。	概ね達成 県内外から多くの人が参加し、一般にも評価を受けることで、デザインのすばらしさを体験してもらえた。	概ね達成 県内外から、31人34点の応募があった。公募を行っていたようだが、知らない人も多く、PRが足りなかったのでは。 来場者も一般投票に参加することができた。 今後も酒に限らず、他のテーマなどでも県民参加の場の提供に期待したい。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	作品展示会と併せて、デザインへの興味を喚起させる講演会を開催し、県民の鑑賞機会の拡大を図ります。	達成 デパートを使った展示により、多くの人に鑑賞してもらうことができた。	概ね達成 百貨店を使用していたが、レイアウト案内板などが徹底されていなかった。 展示会場参加者と講演会参加者の入場者は分けてデータがあると良い。 第一線で活躍されている方の講演会や、デザインを通して、地元にある良いものにスポットを当て、どう戦略を立てて盛り上げていくかに関するディスカッションなど、質の高いものだった。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	優秀作品の表彰と併せて、専門家による評価・指導を行い、新人の発掘及び育成を行います。	達成 アマチュア、学生からも応募があり、専門家、識者の評価を受けることでより関心を持ってもらったことは、今後の人材につながっていくと考えられる。	概ね達成 来場者投票の結果はどのようになったのか。 受賞者に対する評価はあったが、人材育成という意味では受賞者以外の人にも評価や指導を行うことがあればさらに良かった。
総括			86.7%	66.7%

【成果】

- ・鳥取の酒文化をクローズアップし、普段はあまり関心のない人たちにもその存在をアピールすることができた。
- ・戦略的な売り方など、アイデアを創出する力が不足しているメーカーに対し、デザイナーがその魅力を伝えられるようプロデュースするという、地元の産業活性化を手助けする意義ある取り組みだった。
- ・作品を公募することで、質の向上も捉え、作品も美しく、来場者の人気投票も興味をそそるものだった。

【課題】

- ・百貨店を使ったことで不特定多数の来場者があったようだが、駐車場からの案内がわかりづらかった。また、受付の対応についても一般参加者のための配慮がほしい。
- ・今回はお酒だったが、今後もその他県産品をPRするような展示会であってほしい。また、若い人たちが参加しやすいようなテーマを設けられれば。
- ・講演会でスクリーンを使用していたが、高さが低くて前列の人にしか見えなかった。講師、スクリーン共にステージで高さの工夫を行うなどした方が良い。
- ・表彰式の際に、賞状の文を読み上げずに渡してしまったり、賞を贈る側の名前が間違っていたりとミスが目立った。司会者は練習不足だったかもしれない。



第57回鳥取県美術展覧会(鳥取県文化政策課)

平成25年9月14日(土)～11月17日(日) 鳥取県立博物館ほか

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	各部門ごとに県展にふさわしい作品レベルを維持し、県展賞を授与します。	達成 従来は県展賞にふさわしい作品が複数あっても1部門に1つ県展賞を授与していたが、今年度から県展賞を8点から16点に増やすことにより、県展賞にふさわしい作品には広く授与することとした。	概ね達成 一部評価委員から県展にふさわしいレベルという表現に疑問の声。複数県展賞に異議もあった。
		審査基準や選考過程、審査結果を公開し、透明度を高めます。	達成 審査見学希望者への審査規準や選考過程、審査結果の公開、また、出品者への審査結果通知書の送付など、審査の透明化に努めた。	一部達成 審査の公開は評価するが、アンケートでも審査日の公表、周知方法が不十分との指摘がかなりあった。審査の透明性はどのような方法をとっても100%達成とはいかないが、運営側には少しでも不信感を払拭する努力を求めたい。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	ポスター以外の効果的な広報に努め、広く県民への周知を図ります。	達成 今年度から、ポスター以外にチラシを作成し、広報に努めた。その結果、昨年度と比して、来館者数の大幅増加につなげることができた。	一部達成 広報に対しては不十分の声が圧倒的。作品募集は美術団体、関係者などから伝わるが、観客への開催広報はよほど関心のある人でない限りわからない。チラシの製作は評価できるがまだ不十分。広報委員会との連携が重要。
		ギャラリートークの実施を通じ、県民の文化芸術に対する理解を深めます。	達成 ギャラリートークの実施により、作品の技法、魅力を分かり易く県民に解説することで、県民に対して文化芸術に対する理解を深めることができた。	一部達成 ギャラリートークは好評だった。今後も取り組むべきだが、やはり時間など周知が不十分。一方、鳥取以外の会場での実施を希望する声も多く、観客動員効果も考えれば、トーク者も県展賞受賞者、審査委員などに広げれば確保できる。ぜひ各会場に広げるべき。
		総括	100%	41.6%



【成果】

- 1、開催を継続できたことがまず最大の成果。さまざまな意見、批判はあるが、開催ありきを確認すること。
- 2、県内の美術愛好者(製作者、鑑賞者)にその機会を提供するという役割を担う事業として評価できる。
- 3、審査の公開性(これにも審査日の周知方法など批判もあるが)は、密室審査との批判から一歩踏み出した取り組みとして評価できる。
- 4、県内4会場持ち回りは、すべての県民に鑑賞の機会を与えるという意味で堅持すべき。
- 5、ギャラリートークの実施は大いに評価する。今後充実、拡大して取り組みを維持すべき。
- 6、展示目録に各県展賞に対し審査員の講評をつけたのは良かった。

【課題】

- 1、審査について
 - ・県内審査員の任期制(交代制)は過去の見直し、検討を踏まえて行われており、公平感を保つうえで維持すべきだろう。部門によっては東、中、西部の数的バランスを求める声もあるが、それを優先することで実力不足の
実力重視となるべき。地域的バランスなどは二の次、三の次の問題。また、審査員になるほどの人は県内では各部門のリーダー的存在であり各団体の有力者。各審査委員には襟を正して審査に当たってもらう心構えが必要だが、毎年、審査に対する不満の声として審査の不公平性を指摘するものがある。もちろん、すべて正当な意見とは思われないが、事務局は、審査員任命時に審査の公平性、透明性を確保するため、一層の努力をしてほしい。
 - ・県外審査員の採用は現段階では必要だろう。会場配布目録に全分野の講評が載っており概ね好評。ほとんどの人がきちんと評価してあったが、県内審査員に遠慮したのかと思われるものもある。これは無用にしてもらいたい。全分野おしなべて「県内レベルは平均以上だが、冒険的で斬新な発想はみられない」という感想が気になった。県外審査員の方々には、ただ単に良い、悪いの評価だけでなく、全国レベルからみた県内各分野の位置などの分析、県外の最新情報、新たな動きなどを伝える、そういう役割も期待したい。
- 2、展示について
 - ・会場の広さに大きな原因があるが、鳥取市会場でも部門の区切りや展示スペースなど課題が多い。これは毎年のアンケートで見られるが、一向に解消されない。展示が多いのであれば入賞作品を厳選するとか、会期を分けるとかの工夫がなされなければいけない。これは、一方で、作品応募の増加を期待しながら、入選作品が増えれば展示が窮屈になる矛盾をはらんでいる。まして、倉吉や米子、日野会場なども会場の狭さを指摘する声は多い。早急に解消策が示されなければならない。
 - ・アンケートの中で多かった書道作品の釈文の表示。何が書かれているのかわからない作品を見せられても一般の人は面白くない。毎年聞く意見であり改善されないのは運営側の怠慢といってもいい。鑑賞者サービスが不十分といわれてもしかたない。受付時に出品者に釈文の添付を義務付けるなど解決策はある。
 - ・写真部門の組写真の多さは実際のところ気になった。アンケートにもあったが、写真に関心のある鑑賞者の声として重視しなければならない。県外審査員も講評の中で述べているが、県内アマチュア写真界の流行でなければよいが、展示数の多さも気になった。
 - ・部門によって県展賞が複数あったことは、応募者にはうれしいことかもしれないが賛成できない。甲乙つけがたい作品の甲乙をつけるのが審査員の任務。その年の最高賞として選ばれることに誇りもあり権威もある。複数受賞は審査員自ら権威を下げることに繋がりがかねない。同様に、該当なしの部門があってもいい。
 - ・展示については部門の区切り、飾り方などおおいに工夫の余地あり。事務局はアンケートに寄せられた意見を大切に。作品受付方法にも改善を求める声を聞く。
- 3、観客動員について
 - ・今年の観客は1万人弱。昨年が例外であって、ほぼ例年並みに戻ったということだろう。鑑賞者の中心は出品者の友人や仲間、家族など。教室の生徒仲間が連れ立って鑑賞している風景をよく目撃した。一般の鑑賞者を増やすためにはもっと話題性に富んだ県展にする必要がある。たとえば、審査結果発表の際も、単に数字の発表だけでなく、どういう人が県展賞に選ばれたのか、苦節〇十年で初の県展賞とか、この作品の題材にはこういうエピソードがあるとか、事務局が積極的に話題を提供すべき。各新聞、テレビが取り上げたいくなるような広報活動を工夫すべき。待っていてもマスコミは動かない。また、ひとつの方法として、毎年でなくても作品募集の統一テーマを設けて公募、その年の特色を出すのもひとつの方法。(テーマ部門以外も一般部門として受け付ける)

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・県展運営に関しては以前から批判や改善を繰り返しながら57回まで回を重ねてきた。本県でも戦後の一時期には民間団体が運営主体となって開催したことがある。県民の文化度向上のために県主催の県展運営が行われている今の流れを止めることなく、部門を独立充実させることも検討に値する。他県では新聞社が県展運営を行っているところもある。回をかさね県民の財産となっている県展を維持、発展させるためにも、さまざまな意見を聞きながら改革していく必要があると思う。

【要改善事項】

- ・書道作品に釈文をつけること。
- ・アンケートの回収率を向上させること。

とりアートスペシャルコンサート「鳥たちの音楽祭」～FLY HIGH!～

(とりアートスペシャルコンサート実行委員会)

平成25年11月24日(日) とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度とコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	普段触れている音楽の歴史や背景のレクチャー的な要素を盛り込み、音楽の理解を深めることを目指します。	達成 第1部のステージの中で、演奏される音楽の歴史やその背景等を盛り込んだトークや映像投影を行なった。	概ね達成 ゴスペルからブルース、ジャズ、ロックと歴史的背景を踏まえてポピュラーミュージックの歴史を説明。やや「教養主義的」な構成だが、地元で活動するバンドやグループが生き生きと歌唱、演奏する姿がそれをカバーした。ただテレビ局のアナウンサーが務めたMCは「プロの自負」が裏目に出たのか、話がやや冗長すぎた。もっと話の本流をつないで、テキパキと舞台を進行してほしかった。
		ホール等の施設外でのアウトリーチ的な活動を行い、新たな鑑賞者や活動者の発掘に努めます。	概ね達成 市街で行うジャズ・フェスティバル「鳥取 JAZZ」との連携で活動者や鑑賞者の発掘を行ってきた。また、とりアートのプレイベントでイオン鳥取北店でのPRを行い、潜在的な鑑賞者のいるところに訪れての発掘に努めた。	概ね達成 昨年に続き「まちなかジャズ」として駅や商店街などで演奏パフォーマンスを行うなど、アウトリーチの努力は評価したい。ただ、立ち止まって聴く市民はまだ少なく、演奏後の反応も今ひとつ。ジャズが地域を巻き込んだ「ムーヴメント」に至るには、まだ道のりは険しい。
		幅広いジャンルの音楽の事業を実施します。	達成 ジャズをはじめ、ゴスペル、ブルース、ソウル、ロックンロール等のポピュラー音楽、さらにクラシック音楽や合唱もあり、多ジャンルの音楽を盛り込んだコンサートになった。	達成 第2部はクラシックのオーケストラを交えた幅広い演奏構成にしたことで達成とはいえるが、本来「幅広いジャンルの音楽」を紹介することが同公演の狙いや醍醐味なのかどうか。逆に「市民が日ごろ親しむジャズ、ロック」といった、これまでのとりアートにはない新鮮な切り口がどんどん薄まってしまったのでは。
県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供		プレイベント等を文化施設以外の場所で行うなどして、気軽に文化芸術に鑑賞できる機会を提供します。	概ね達成 「鳥取 JAZZ」(鳥取 JAZZ 実行委員会として出演した野外等での演奏の機会)、とりアートのプレイベント等で、気軽にジャズやブルース、ソウル、ロックンロール等の音楽に親しんでいただく機会を提供し、多くの方に楽しんでいただいた(今後もしていく)。	概ね達成 聴衆はまだ少なかったとはいえ、プレイベントとしての「まちなかジャズ」は、ステージ公演以上に労力と企画力が必要な取り組みに思う。そこは評価したい。今回の主催者が鳥取を「ジャズの町」にしたいと思うならば来年度以降も、こうしたイベントやワークショップをぜひ継続してほしい。
		複数会場での開催や会場周辺を取り込んだ取り組みを行います。	概ね達成 鳥取 JAZZ の一環(の関連事業)として本事業をPRし、「11月 は JAZZ 月間」と称して街中とコンサートとの一体化を図った。また、コンサートの開場前にとりぎん文化会館の正面入口前からフリースペースの特設ステージ、梨花ホール2階入り口にかけて打楽器隊によるパフォーマンス演奏ならびにパレードを行い、とりアート東部地区イベントとの連携、とりぎん文化会館一体となつての雰囲気作りを図った。	達成 同日に開催されていた東部地区イベントのフリースペースで演奏したサンバの演奏隊が、梨花ホールへ向かって行進する演出は効果的だった。これは国民文化祭や以前の地元イベントでもたびたび使われた手法だが、それを「定番」としてうまく生かしていた。

頂点の伸張		県内のさまざまな文化団体や活動者と連携し、事業を推進していきます。	概ね達成 県オーケストラ連盟、合唱連盟、吹奏楽連盟等の文化団体、ポピュラーやクラシック等の県内在住のアマチュア活動者、プロの演奏家と連携して事業を行なった。準備期間が1年未満と短く、事業運営等の部分で関わりや意見交換を十分に持てなかったところもあるが、特にオーケストラに県内外のプロ奏者が練習の段階から参加していただき、地元メンバーへの指導やディスカッション等を通じてレベルアップにつながった。第1部に出演したバンドのメンバーもプロデューサーや演出家との話し合いを持ちながら各々に工夫をこらしたアレンジをほどこしたり、普段のライブでは出来ない編成での演奏に挑戦したりして貴重な機会になった。今後の活動に期待したい。	達成 準備期間に限られてはいたが、菊池（松本）ひみこ氏が国民文化祭でのプロデュース以来、吹奏楽連盟や合唱連盟、オーケストラ連盟とのつながりを生かし、各団体と連携、アマチュアにプロを交えた完成度の高いコンサートに仕上げた。「プロデュース力」という言葉が分かる。
県内の文化芸術の質の向上	鑑賞者アンケートを実施・分析し、事業後も活動者等の質向上に生かせるよう努めます。	一部達成 鑑賞者アンケートは回収率があまり高くないが、熱心に書いてくださった方も少なくなく、今後の企画や出演した活動者の活動等への参考になると思う。	一部達成 事業テーマやコンセプト等は企画当初から基本的に一貫しており内容の充実に寄与したが、1回限りのコンサートの時間内では十分には伝えきれない部分もあり、本当の「音楽祭」のような複数回のコンサートを設けるか、公演やレクチャー、クリニック、ワークショップ等の多数の事業を組み合わせたり出来るとなおさら良かった。本来3年弱かけて作り上げるメイン事業を今回は1年弱で行う必要があったが、準備期間をもう少し欲しかったというのが本音である。	概ね達成 アンケートの回収率こそ目標に届かなかったが、県内ではふだん演奏の機会が少ないジャズやロックなどの愛好者が集まったせいか、鑑賞者アンケートに良かった曲目、やってほしい演奏や改善点などが詳しく書き込まれていたのが特徴的。
	事業テーマ、コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。	一部達成 アンケートを取る等、ニーズの把握に努めます。	一部達成 鑑賞者アンケートにとりアートへの要望等を記す自由回答欄を設けたが、要望等の記述はあまり多くなかった。公演の感想にどうしても集中してしまうので、こうした機会以外での調査やアンケート以外での情報収集、ニーズ把握を別途模索する必要があるだろう。	一部達成 実はジャズやブルース等、これまでにない、もっと突っ込んだ構成を期待していたが、「鳥たちの音楽祭」と言うとおりの、歴史をなぞり幅広いジャンルの音楽が次々登場する形式だった。前者を期待していた鑑賞者はややもの足りない内容だったかもしれない。ある程度「デビュー」に音楽性や楽しさを追及するのか、幅広い「県民の音楽祭」で良しとするのか、そこを主催者、県が議論する準備期間がもっとあれば良かったのに、とも思う。
県民ニーズの把握	アンケートを取る等、ニーズの把握に努めます。	一部達成 基本的にはアマチュア主体で行えたと思う。プログラムの中で、プロだけの演奏の機会は「A Night in Tunisia」だけであった。アマチュアだけでは十分な質が保てないところを力のあるプロがサポートし、良質な演奏をお聞かせ出来たかと思う。ただ、鑑賞する側にとってはもしかしたらもう少しプロだけの演奏の機会があった方が良かったのかもしれない。	一部達成 アンケートを取る等、ニーズの把握に努めます。	概ね達成 帰り際のアンケートは、公演が盛り上がりれば盛り上がるほど、公演への感想が中心になる。なかなか建設的な提案を含めて書き込む余裕はない。ニーズ等はずっと違う機会を捉えて把握すべきでは。
良質な作品の提供	アマチュアを主体にしつつプロの手を借りることにより事業の質の向上を目指します。	一部達成 基本的にはアマチュア主体で行えたと思う。プログラムの中で、プロだけの演奏の機会は「A Night in Tunisia」だけであった。アマチュアだけでは十分な質が保てないところを力のあるプロがサポートし、良質な演奏をお聞かせ出来たかと思う。ただ、鑑賞する側にとってはもしかしたらもう少しプロだけの演奏の機会があった方が良かったのかもしれない。	一部達成 アンケートを取る等、ニーズの把握に努めます。	概ね達成 ジャズ、クラシックともプロの手は借りたが（特にジャズは、さすがと聴き惚れる演奏だったが）、コンサート全体は、あくまで地元のアマチュア主体でやり遂げたと思う。プロがうまく地元のアマチュアをサポートしていた印象。

頂点の伸張	良質な作品の提供	プロ(プロデューサー、演出家等)の目により、作品全体の質の向上・担保を目指します。	達成 プロデューサー(菊池ひみこ)、演出家、その他プロの演奏家や音響等の技術スタッフにより公演の質の担保や質の向上を実現できた。	達成 前にも書いたが、やはりプロの演奏家で地元在住のジャズピアニスト、菊池ひみこ氏(プロデューサー)の存在が大きい。MCがやや手間取り、演出家の思い通りの進行には届かなかったかもしれないが、音響等もハイレベルで、県内で鑑賞できるコンサートしてはかなり質が高かったのではと思う。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成 活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	プロによる指導と一緒に練習する機会を通じて、県内活動者の技術力や表現力の向上に努めます。	達成 オーケストラのメンバーやビッグバンドのメンバーを中心に、プロのメンバーとの練習や指導を通じて、技術面や表現の面でさまざまなアドバイスやサジェスチョンをいただいた。	概ね達成 準備期間としては短かったかもしれないが、プロと交流する中でいろいろ学べたのではないかなと思う。
		地域や教育機関との連携により、後継者や担い手を育成します。	概ね達成 第1部のスクリーンとして使用した巨大な和紙をあおや和紙工房で漉いていただいたり、そこに八頭高校書道部さんに書を描いていただいた。また、出演の方では吹奏楽連盟を通じて鳥取東高校吹奏楽部さん、合唱の方は鳥取市立日進小学校の3年生に音楽の授業を通じて参加・出演していただくなど教育機関等との関係で、次代の活動者の育成に努めた。	概ね達成 まだ一部だが、まちかどライブで鳥取駅構内を沸かせた岩美高校ビッグバンドのジャズ演奏、若者と子どもちによるゴスペルなどを聴くと、多世代にこうしたジャンルの音楽が受け入れられ、浸透していると感じることができた。また一部の背景スクリーンの制作を八頭高書道部に依頼するなど、思わぬ連携も。
		出演者を公募し、ワークショップを通じて育成することにより、活動者の発掘・育成に努めます。	達成 子どもの合唱(小2~高校生を対象)並びにオーケストラの人材を公募し、プロの演奏家や指導者にお越しいただいて育成を行なった。合唱は県内だけでなく兵庫の北部(但馬地域)からも応募・参加があった。	達成 小学生から高校生の合唱、オーケストラを中心に公募、プロの演奏家や指導者のクリニックを受けることで貴重な体験ができたのではと思う。
	鑑賞者の育成	公演内容に関するイベントや関連事業を通じて、鑑賞につながる工夫を行います。	一部達成 「鳥取 JAZZ」等での実演の機会や鳥取県文化振興財団さんとのイベント等の機会を設けた。	一部達成 まだ地元では鑑賞人口が少ないジャズだが、小規模のライブや路上でのまちかどライブなど、さまざまな機会を通じて鑑賞者を増やす努力を続けているように見える。
		他世代、他ジャンルの文化芸術を盛り込むことにより、鑑賞者の育成に努めます。	一部達成 子どもから年配の方まで出演・参加し、また音楽のジャンルも幅広く、さまざまな愛好家や鑑賞者を取り込めた。ただ鑑賞者アンケートによれば、例えばクラシックを好まれて来られたお客様の中には第1部のポピュラー音楽のステージがうるさいと感じられる方も見受けられ、他方でブルースやロックンロール等を懐かしみ楽しまれたという方(どちらかといえば年配の方々)も少なくなかった。こうした公演の鑑賞機会が増えていけば、互いの理解も深まっていくものと思う。	概ね達成 ジャズ、ゴスペル、ブルース、ロックが中心の第1部と、「ふるさと」を編曲したクラシックの第2部は、かなり鑑賞者が異なるジャンルだが、両方付き合うことでお互い認め合う機会になるのではと思う。食わず嫌いよりまず聴いてみるのが相互理解の始まり。

人材育成	アートマネージャーの育成	事業の企画・運営・推進が出来る人材の発掘・育成に努めます。	未達成 専従の運営スタッフを探したが、事業の終わった後の未来の保障等がない条件下では専従者になってくれる方を見つけるのは難しかった。しかしながら、「文化によるまちづくり」に興味があり、都合の付く時ならば手伝っていただけると見つけ、事業実施の数ヶ月前より週に数日程度来て手伝っていた。	未達成 菊池ひみこ氏のライブハウスを拠点に、まちづくりに関心がありボランティア的に動いてくれるスタッフが集まり、企画段階から参画し、次回につながるものになった。しかしアートマネージャー的な人物がおらず、広報や券売を含めて総合的な運営はやや後手後手に回ったのではないかと。
	技術者の育成	専門の技術スタッフ（プロ）との交流を通じ、技術力の向上に努めます。	一部達成 音響・照明・演出は初めて一緒にさせてもらうプロの方であったが、私達にはない発想や技術、さまざまなアドバイスをやサジェスチョンをいただき、これまでにないスタイルのコンサートが実現できた。また、会館の技術スタッフさんにも多大なご助力をいただいた。さまざまな演出の仕方、方法論、技術等を見せていただき、こういうことも出来るのだという経験を今後に生かしていきたい。	一部達成 今回、演出・音響・照明は県外のプロの力を借りた形。鑑賞者・評価委員の目からはなかなか分かりにくい部分だが、地元スタッフとの共同作業で、術を含めさまざまな交流の成果があげられたのではないかと。
	支援者の育成	文化芸術に親しみをもち人を増やす工夫を行います。	一部達成 鑑賞者アンケート等を読む限り、ことポピュラーのバンドについてはこういう活動をしている人たちが鳥取に居ることを初めて知ったという方も多く見受けられた。また、こうしたコンサートを継続的に行って欲しい旨の感想も少なからずあった。コンサート単体では、ある程度文化芸術に親しみをもち人を増やすことができたと思うが、その火を絶やさずに定期的な公演等としていかに今後の活動につなげていくかが課題である。	一部達成 このコンサートを通じて、初めてジャズやポピュラー音楽に取り組む地元バンドや団体を知った鑑賞者が少なくなかった（鑑賞者アンケートから）。ジャズやロック、ポピュラー音楽はアマチュアが参加しやすいジャンルだが、これまで仲間うちの「アマチュアバンド大会」のような形しか発表の機会がなかった。今回のコンサートをきっかけに、とりアートで継続的にジャズやロック、ポピュラー音楽に陽を当てた取り組みを強める良い機会になったのではと思う。
	育成した人材を活用する場の提供	県外で活躍している県出身者に出演してもらうことにより、育成された人材活躍の機会を設けます。	達成 県出身のクラシック演奏家で、東京を中心に活動をされている4名の方に出演していただいた。地元のオーケストラメンバーにとっても、地元出身のヒロインとの共演はモチベーションを上げる一因であったようだ。また、弦楽器の3人はコンサート本番前日に行われたとりアート東部地区イベントの「音楽の喫茶店」にも出演され、そちらでも鳥取の皆様にご紹介をできたかと思う。	概ね達成 第2部のクラシックで、中央で活躍する県出身の演奏家4名が参加、演奏を引き締めていた。交流会にも参加し、後進の励みにもなった。
		県内イベントへの派遣など、人材活躍の場を設けます。	一部達成 鳥取 JAZZ 実行委員会としていたイベント出演の機会に、ポピュラー音楽のグループのバンドや合唱団等に出演の機会を設けてきた（今後も）。	一部達成 「鳥取ジャズ」を掲げた実行委員会がここ数年、継続的に出前ライブに取り組んでおり、まちかどコンサートを含めて今後も続けてほしい。

<p>人材育成</p>	<p>育成した人材を活用する場の提供</p>	<p>過去のとりアートで行った事業の要素や出演者を盛り込むことで、育成した人材の活用機会とします。</p>	<p>達成 鳥取県総合芸術文化祭開催のきっかけとなった国民文化祭のイメージソングを再演したことを筆頭に、東部地区でのメイン事業と兼ねられた全国生涯学習フェスティバル(まなびピア)の総合開会式から生まれた夢フェスタ記念合唱団の団員の出演、「アートチャレンジ事業(キラリ☆アートプロジェクト)」で行われた「わくわくゴスペル体験プロジェクト」、「鳥取サンバ」、「(第1回)鳥取 JAZZ」の要素や出演者を盛り込み、鳥取県総合芸術文化祭を通じて育成・創出された人材や作品、企画を活用した。</p>	<p>概ね達成 菊池ひみこ氏が初めてプロデューサーとして采配を振った国民文化祭をきっかけに、鳥取サンバ、ゴスペル体験など、これまでとりアートで行った事業や育った人材が今回のコンサートにも生かされている。</p>
<p>総括</p>		<p>60.6%</p>	<p>63.6%</p>	



【成果】

メイン事業で音楽コンサートは近年なかったと思う。親しみやすいポピュラーミュージック、ジャズ、ロックを取り上げたことで、子どもや若者、中高年まで楽しめる市民コンサートになった。特に地元アマチュアが気を吐き、プロ(演奏者、音響・照明・演出)がうまくサポートする形で、鑑賞に堪える質の高さをキープした。「鳥取らしさ」を問われれば難しいところだが、街角にジャズが流れる鳥取にしようというスタッフらの継続的な努力は買いたい。

鳥取はジャズ、倉吉は伝統芸能や歴史、米子は映像とアニソンなど、それぞれの都市の個性や得意技が浮かぶ取り組みがもっとあっていいのではと思う。

舞台では、映像に加えて高校の書道部による背景スクリーン、和紙のランプなど工夫を凝らし、会場のムードを高めた。

【課題】

第1部(ジャズ、ゴスペル、ブルース、ロック)と第2部(クラシック)のアンバランス。第1部で手をたたいていた少なくない人が、長い休憩時間の後、第2部では姿が見えなくなっていた。またチラシにクラシックのゲスト出演者が大きく紹介されているのに、当日の演奏会ではその演奏者の存在感が感じられない構成や内容だった、という指摘もある。

地元のアマチュアバンドが出演した第1部は、やや「身内受け」という指摘もあった。一般市民への広がり。開催間近になってもなかなかコンサートのPRや内容が聞こえてこず、チケットの売れ行きを心配する声もあった。結果は目標1200人に対して954人。何とか体面は保てたが、プロを起用して総事業費1800万円(オール県費)と聞くと、「プロだけによるコンサート」がそれより安い費用で呼べることを考えると何だか釈然としない。潤沢な資金があったから「切迫感がやる側に無かったのではないか」「お金をいかに使うか、という方に傾いたのでは」という評価委員の指摘もあった。また、アートマネージャー不在のまま本番を迎えたことが最後まで響いた。

「鳥取＝ふるさと」という、よくある展開や締め方について、「新鮮味がない」「いや、鳥取ならば、やはり『ふるさと』」と評価委員の意見は分かれたが、毎回だと「お約束のフィナーレ」が予定されている感じで、そろそろ「ふるさと」以外の展開も考えないといけな。

この音楽祭を一発花火に終わらせないこと。「ジャズの流れる町」という夢をこれからも目指していくことが、これだけの行政支援を受けてメイン事業を行った者の責任といえる。

【その他事業に関する意見、感想など】

中部地区事業で、とりアートの補助金はわずか数十万円にもかかわらず「どうせやるなら子どもたちのために大ホールで」と小ホールイベント(300人)をやめ、参加児童の保護者や関係団体に呼びかけてチケットを手売りし、倉吉未来中心の大ホールを満杯(950人)にしたイベント(倉吉こどもハッケン伝)があった。出演者がロビーで鑑賞者を見送る際も熱気を感じた。こうなると「メイン事業とは何ぞや」という思いに再び立ち返る。

現在メイン事業のあり方について検討の途上だが、従来のように3年に1回、東中西持ち回りでプロの支援を受け、潤沢な費用をかけてやるのがメイン事業ではないはず。東中西それぞれの地域の持ち味や伝統・文化を生かしながら、日ごろ行ったことのない他地域にわざわざ観に、聴きに行こうと思わせる事業こそ、とりアートのメイン事業では。3地区で「とりアート」の看板を掲げながら、生活・経済と同じく文化芸術でも「東中西の距離感」が埋まらない、県民が一体になれない現状を見るにつけ、そう感じます。

【要改善事項】

実施者アンケートの回収率を向上させること。

第11回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート 東部地区事業(東部地区企画運営委員会)

平成25年11月23日(土)・24日(日) とりぎん文化会館ほか

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	県東部の伝統文化を紹介したり、体験する機会の提供により、文化芸術の裾野の拡大を目指します。	達成 「因幡の傘踊り」「因幡麒麟獅子舞」「因州和紙ワークショップ」等、自主企画として東部地区の伝統芸能・文化に拘った企画を実施した。	達成 傘踊り、麒麟獅子等東部の伝統芸能が披露されたのはよかった。体験としては因州和紙ワークショップがあったが、傘踊り、麒麟獅子でも欲しかった。
		集客力のあるアウトリーチ活動を行い、新たな鑑賞者・活動者の発掘に努めます。	概ね達成 初めて、東部地区で最も集客力のあるショッピングモール(イオンモール鳥取北店)においてプレイベントを含めた事業を実施し、気軽に文化芸術に触れていただく機会の提供ができた。しかし、それ以外では目立ったアウトリーチはできておらず、課題を残した。	概ね達成 会場を2会場として試みたことは評価できる。全体的に観客増に結びついたかは今一つではなかったか。
県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供		東部地域のショッピングモールと連携を図ることにより、多くの鑑賞者や関係者が参加できる事業を行います。	達成 初めてとりぎん文化会館以外の会場で事業を実施した。集客力のある商業施設と連携できたこと、メイン会場になかなか足を運んでいただけない方々に“とりアート”をアピールできたことは大きな成果であった。	概ね達成 とりぎん文化会館とショッピングセンターの2会場で実施するという意欲的な取り組みであったが、2会場の連携、交通、案内、集客共に問題があった。
		障がい者や高齢者、乳幼児連れの方でも気軽に鑑賞および参加できる事業を目指します。	達成 とりぎん文化会館会場・イオン会場ともに、障がい者アートとの連携により事業を開催できたのは大きな収穫であった。	概ね達成 障がい者全国大会に向かったの展示、ステージの企画は評価できる。ただ、展示会場は説明紹介がなく残念。
		テレビなどメディア媒体、チラシの新聞折り込み、またウェブなどを活用した情報発信に努めます。	達成 初めて日本海新聞への折込による東部地区全域への広報を行い、アンケート集計からもその効果を伺える結果が出ている。また、日本海テレビ・NHKへも積極的に出演し、告知活動を行った。	概ね達成 テレビ、新聞折り込み、インターネットと積極的に活動が行われた事は良いが、集客面で拡がりを感じられなかった。

頂点の伸張 頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	自主企画事業においては、様々な文化団体と積極的に連携し、より質の高い企画事業を行います。	概ね達成 自主企画においては、プロアーティストや外部団体の力等も借りながら、質の担保に努めた。しかしワークショップに於いては、会場設定の影響により参加者が少ない企画もあり、課題を残す結果となった。	一部達成 質の高い企画もあったが、全体のテーマとのつながりの中で一定の質が担保されていたとは言い難い。
	良質な作品の提供	公募事業においては、資料の提出を求めた上で、選考会を行うことで質を担保します。	達成 応募者には、活動・実施内容の分かる資料(画像・映像等)の提出を求め、選考の参考とした。しかし、当日の様子から改善が必要と感じられる企画もあり、これまでの参加経験等にとらわれない選考が必要である。	概ね達成 実施者も改善が必要としている企画もあり、公募事業の参加の量、質ともより高いものを選んで欲しい。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	様々な青少年の伝統芸能を中心に取り上げ、若者の活動の育成、支援に努めます。	達成 伝統・古典芸能からダンス、音楽等で若者が真剣に取り組んでいる姿が見られ、発表の場を設けることができた。また、昨年自主企画で出演いただいた高校が公募企画に応募され、出演されるなど、一過性ではない成果もあった。	達成 傘踊りの中・小学生参加、麒麟獅子参加など伝統芸能の継承、音楽喫茶店若者の出演等取組みが実りつつある。
		実行委員に若手を起用することにより、次世代の文化活動者を育成します。	達成 委員として多くの学生が参画し、これまでにないアイデア等が提案された。しかし、まだまだ遠慮している部分も見え、来年度にさらなる期待をしたい。	概ね達成 実行委員会に学生が参加し、自由な発想で企画された面は評価できるが、運営面で活かしきれていない。取組みは評価できるので今後期待したい。
	鑑賞者の育成	子ども達でも参加できる企画を行うことにより、子どもが文化芸術に触れられる機会を作ります。	達成 「ミニ砂像体験」「つみきアート」「モザイクアート」等の子ども向け企画を実施することができた。しかし、全般的に高齢者層の来場が多く、まだまだ子どもの来場には改善の余地がある。	概ね達成 砂像づくり、つみきアート、モザイクアートなど子ども向けの企画は面白い。子どもの姿は少なく、引き付ける工夫(事前申し込みなど)が必要ではないか。
オープンスペースを活用した事業を実施することにより、子どもから大人まで気軽に芸術に触れられる機会を多く作ります。		達成 とりぎん文化会館会場・イオン会場ともに、オープンスペースをメインステージとしており、思い思いのスタイルで気軽に楽しんでいただく環境を作ることができた。	概ね達成 オープンスペースでの事業が多く、開放的で楽しむことができた。配置、会場の使い方に工夫が欲しい。会場案内も改善されたが、まだ解りにくい。一層の工夫を期待したい。	

人材育成	アートマネージャーの育成	サブアートマネージャーを配置する事で次世代のアートマネージメント人材を育成します。	達成 大学生をサブアートマネージャーに据えたことが一番の成果。そして、ただ据えただけではなく、様々な新しい発想を産むとともに、メインアートマネージャーのサポートとして活躍できた。	概ね達成 サブマネージャーに大学生を配置したのは良い。ただ、それが運営にどのように反映されたのかは解らなかった。
	支援者の育成	今まで関わりのなかった異文化・異業種の方との交流を持つことで、事業に新たな広がりを作り、一緒に盛り上げていきます。	概ね達成 イオンとの連携に加え、食コーナーで広く東部地区の行政・観光・商工会等に呼びかけを行い、出店をいただいた。初めての試みであり、出店数等で課題を残したが、次年度に繋がる道を開拓することができた。	一部達成 イオンとの連携、郷土の食コーナーができたのは評価できる。2会場連携、食の店の数、日程の少なさなど課題が残った。
	育成した人材を活用する場の提供	様々な地域行事で、委員またはボランティアとして培ったスキルを発揮できるようにします。	達成 委員としての活動経験を既に地域活動に活かしている。また、普段できない貴重な経験となっている。	評価できず 地域の文化祭や大学のイベント等の場で主要な役割を担うことにつながったようだが、評価委員会として検証できなかったので「評価せず」とする。
総括			92.9%	66.7%

【成果】

- ・因幡の傘踊り、麒麟獅子など青少年の伝統芸能育成の企画は良かった。
- ・平成 26 年度障がい者文化祭全国大会へ向けて取り組んだことは評価できる。メインステージでの太鼓の演奏は生き生きとして楽しんでいる様子が感じられ素敵だった。その反面残念なのは、展示ブースの運営はいまひとつであった。
- ・委員の大学生の自由な発想がみられた(非公式キャラクター絵で会場飾付)取り組みは評価できる。
- ・中・高校生の参加があったのは一歩前進したのでは。次に繋がって欲しい。
- ・音楽喫茶店は観客も多く、飲食しながら寛いで音楽を楽しめたので、東部イベントとして発展させて地域の多くのアーティスト達が出演できるよう育てて欲しい。

【課題】

- ・「因幡にぎや街道」というタイトルと企画内容とが合致していると感じられない。企画委員会で内容を深めて欲しい。
- ・食のコーナーの出店が少ない(特に二日目)。
- ・2会場での開催であったが、相乗効果はあったのか。会場同士の連携、交通確保など課題が残ったのでは。良い試みなので次年度に結びつけて欲しい。
- ・ワークショップ特に子どもの参加ができるものが少なかった。二階での企画について案内などが解りづらい。
- ・前回までより広報に力を入れているのは伝わったがまだ知らない人が多いようだ。関係者のイベントではなく、市民のイベントにするには難しい課題ではあるが効果的な広報を模索して欲しい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・古楽アンサンブル(リコーダー)は素晴らしい演奏で地方でもアマでも目標を高く掲げレベルの高い活動をしている人たちがいるのだと知って大変嬉しかった。このような存在を県民に気づかせ更に大きく育てていく「とりアート」が機能することを願う。
- ・今後参加団体を増やし、内容を充実させ、「鳥取の食文化」を広め継承育成していく場になってほしい。鑑賞者増も期待できるのではと思うので是非継続して取り組んで欲しい。



第11回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2013 中部地区事業(中部地区企画運営委員会)

平成25年11月16日(土)・17日(日) 倉吉未来中心ほか

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	身近な生活や歴史のテーマを取り上げる等の工夫により、文化芸術の裾野拡大を目指します。	概ね達成 歴史的建造物や流木の展示、里見八犬士をテーマとした舞台公演など、舞台芸術や郷土の歴史文化を学び、触れられる機会を提供できた。また、合唱、絵画、ダンス、アニソン、ダンボールなど身近なテーマを多く取り上げることができ、裾野の拡大につながったと思われる。	達成 毎年「里見八賢士」を取り上げた取り組みとして様々な形でのアプローチがあり、今年度は「倉吉こどもハッケン伝」として三朝と倉吉の和太鼓の競演とバレエでさらなる広がりを見せた。このほか倉吉の民話や旧明倫小学校円形校舎など地域にまつわるテーマを数多く取り上げていた。
		幅広い文化芸術分野の事業を実施します。	概ね達成 和太鼓、ダンス、オーケストラ、朗読、バンド、吹奏楽、ハンドベル、パトントワリング、大正琴など、昨年と比較しても幅広いジャンルの企画を実施することができ、偏りがなかった。	達成 ステージイベントではクラシックの演奏、アニソンライブやダンスパフォーマンス、演劇などが行われ、展示では絵画作品、流木アートなど、またワークショップにおいても和菓子や演劇を扱ったものなど幅広いジャンルの取り組みが見られた。
		大人向けばかりでなく、子ども向けの企画も実施し、親子・家族で楽しめるイベントにします。	達成 保専ステージ、アニソンライブ、お家をつくろう、とりアートクエスト、和菓子づくり体験、その他ワークショップなど親子で楽しめる企画を多く実施した。実際に、親子連れの様子が会場内が賑わっていた。	達成 特に子どもや親子を対象とした取り組みが多く、フィナーレの「倉吉こどもハッケン伝」などの子どもたちの出演者としての参加に加え、保専のステージやワークショップ「お家をつくろう」など見て、参加して楽しむことができるプログラムが充実していた。
県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	気軽に鑑賞できるオープンスペースでの企画を充実させます。	達成 ステージ発表だけでなく、ワークショップ、展示等も行なうなど、アトリウムというスペースを最大限に活用できた。絶え間なくステージイベントを行ったことや総合司会をつけたこと、会場を装飾したことなどで、気軽に鑑賞できる環境を提供できた。	達成 1階のアトリウムがうまく活用されており、ステージイベントでは総合司会を採用したことにより、スムーズかつ盛り上がりのある進行ができていた。また多くのワークショップが配置されており、気軽に見学・参加できる環境であった。この他階段を利用したステップアートや風船による飾り付けなどによって会場が華やかに演出されていた。	
	幅広いネットワークを形成し、口コミを利用します。	一部達成 DM やはがきを利用した広報に初挑戦した。一部企画では口コミによる効果が見られたが、まだ宣伝が足りないと思われる企画もあった。	一部達成 DM やはがきによる広報活動を行ったようだが広報不足の感は否めない。	

裾野の拡大	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	県民にイベント情報が届きやすいよう、SNS や新聞折込みなど、人々にとって身近な媒体を活用して広報します。	達成 委員有志で Facebook を立ち上げ、SNS を利用した情報発信に力を入れた。また、当日プログラムの新聞折込みを行い、イベントの詳細を事前に広く周知できたことで、確実に来場者数が増えた。	概ね達成 各イベント主催者による facebook 等の SNS を利用した広報や新聞折込みによる努力の跡は見られるが、結果としてまだ十分とは言えない。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	異なるジャンルの文化団体との連携等を通じて、とりアートだからこそ実現できるコラボレーション企画などを積極的に実施します。	達成 倉吉こどもハッケン伝、アニソンライブ、次世代育成コンサートなど様々なジャンル、団体によるコラボレーション企画を複数実施することができた。	達成 フィナーレの倉吉こどもハッケン伝は、打太鼓、バレエ、シンセオーケストラなど異ジャンルの競演により新たな魅力となっていた。その他「アニソンライブ」や「次世代育成コンサート」においてもコラボレーションによって新鮮な印象を受けた。
		事業テーマ、コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。	概ね達成 イベント名、サブタイトル、コンセプト、チラシのキャッチコピーが若干不明確になっていた部分は否めないが、昨年以上に充実した内容の事業を実施できた。	達成 テーマやコンセプトについては少し煩雑な面もあったが、事業のコンセプトが子どもや若者を中心とした裾野の拡大、次世代育成に置かれていることは理解できた。
	良質な作品の提供	委員自らが実施する企画を多く取り入れ、高質な事業実施に努めます。	達成 全40企画、委員企画を29企画実施した。また、今年では地区事業では初の大ホールを使用した企画も実施できた。来場者アンケートでも質を評価する声を多くいただいた。	達成 音楽と工作のワークショップコラボ「フォークロア大行進」や「次世代育成コンサート」など4分の3程度の事業に委員会が関わっており、委員の方々の熱意が感じられ、それぞれの事業内容についても完成度が高く充実したものであった。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	次世代を担う子どもたちや若年層の発表の場を提供します。	達成 半数近くが子どもや若年層が出演(実施)する企画であり、十分な発表の場を提供できた。	達成 多くの事業に子どもや若者の参加が見られ十分な発表の機会が提供できていた。若者の発想で昨年から継続されているアニソンライブでは多くの観客でにぎわっていた。
		地域の伝統文化の継承者と連携し、事業を実施します。	達成 和太鼓、和菓子づくりなど、伝統文化の継承者と連携した企画を実施できた。	達成 和太鼓、和菓子、民話など地域に伝わる文化を多く取り入れていた。特に和菓子作りはユニークな取り組みでありもう少し場所を広げても良いのではないかと。

人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	地域の学生や教育機関との連携により、後継者や担い手を育成します。	概ね達成 園児・小学生を対象とした絵画コンクール、中学校美術部制作のステップアート、高校生によるお茶席、保育専門学院学生によるステージなど、各世代の学生に参加していただいた。	達成 絵画コンクールでの園児や小学生、ステップアートでの中学生、その他高校生や保専の学生とも連携できていた。具体的には打吹童子ばやしに倉吉市内の小学生が学校の枠を超えて参加したり、ワークショップではジュニアオーケストラと室内合奏団が地元の弦楽器製作工房の協力を得て「初めてのバイオリン。チェロなどに触る体験コーナー」を設けていた。
	鑑賞者の育成	演奏体験コーナーを設けたり、ステージイベント出演者によるワークショップを実施するなど、鑑賞の次のステップへ踏み込めるよう工夫します。	概ね達成 物作り系のワークショップだけでなく、ダンスや弦楽器、和太鼓などを体験できるワークショップも多く取り入れることができた。	達成 ダンスや楽器などを体験できるコーナーがあり、鑑賞者が体を使って体験することでより興味を持つことができ、それぞれの文化に関わる人口を増やすことにもつながる。
	アートマネージャーの育成	今年度新たにサブアートマネージャーを選出し、次期アートマネジメント人材の育成を図ると共に、更なるアートマネジメント力の向上を狙います。	概ね達成 サブアートマネージャーを2名選出し、アートマネージャーをサポートする体制が作られた。	概ね達成 2名のサブアートマネージャーによるサポート体制ができていたようだ。
	支援者の育成	地域や異業種と連携することで、支援者を広げるよう努めます。	一部達成 学生や地域の方々との連携により、ワークショップやフードコート等を実施できた。また、今年新たにパークスクエア内の食彩館と連携したが、周辺地域だけでなく、更なる連携が求められる。	一部達成 ワークショップやフードコートでは和菓子組合や陶芸関係者、蒲鉾業者など地域の支援者の協力により、沢山の人がにぎわっていた。また同施設内でなっ子館の無料開放が行われていたことで集客面で相乗効果を生んでいたようである。
	育成した人材を活用する場の提供	文化団体や活動者の交流を促進することで、人材の交流を活発化させます。	概ね達成 事業当日だけでなく、プレイベントにおいても、各団体が交流できる場を提供した。ただ、更に交流を深め、活発化させていくには、意図的にコラボ企画を増やすなど、やり方を検討していく必要がある。	概ね達成 当日だけでなく多くの機会に、交流の場が設けられていたようだ。
	総括		77. 1%	85. 4%

【成果】

今年度は目標集客数を大幅に上回っており、また年々集客が増加している現状は、委員の方々の努力によるものである。各事業の内容の充実はもちろんのこと、クイズラリーやアンケート抽選など様々な方法で集客に向けた工夫が行われていた。多くの観客の前で発表を行うことは、発表者にとってもやりがいがあり、またそれぞれの文化活動を広め、活動人口を増やすことにもつながる。ジャンルが異なる活動を行う人たちが交流の場を持つことで、お互いの活動への理解が深まり、さらにコラボレーションすることで新たな可能性も生まれてくる。多くの事業が子供や若者、家族を対象とした内容になっており、人材育成という面においては柱であり将来それぞれの文化活動を継承し、伝えていくために重要な役割を果たしている。また集客の面でも幅広い年齢層から支持される事業であり、大きな成果になっている。総合司会の採用はステージイベントのスムーズな進行や会場の盛り上げに大きな役割を果たしていた。地域の飲食店との連携も進み「食」という楽しみが増えつつありさらなる連携の強化が望まれる。風船やステップアートダンボールハウスなどユニークな演出により会場全体の雰囲気盛り上げていた。

【課題】

訪れる時間によって来場者の数が大きく異なる場合もあり、その時に来た人には良い印象を与えないことも考えられる。各イベントの規模によっては特別な補助を行うなど、実施者の負担にならず今後も継続できるような環境を整えることが必要。子どもたちによる演目が多い点は評価できる一方で、高いレベルの文化活動を発表する場でもあるという点も踏まえたプログラム構成を考えていくことも必要であろう。ワークショップをアトリウム中心にしたことで多くの人でにぎわい会場全体の雰囲気が良くなっていたが、2階は来場者が少なく案内板や動線を工夫するなど何らかの対応がほしい。フードコートが充実してきた反面、食するスペースが少なかったようだ。ごみ箱が分かりにくかったようで、ごみ箱も会場演出のひとつとしてアーティスティックなものを作るなどの工夫することによって衛生面と環境が同時にクリアできるのではないかな。

【その他事業に関する意見、感想など】

昨年は東・中・西すべてのとリアートに参加したが、他に比べ中部が今一つ盛り上がり欠けると感じた。しかし今年は昨年に比べあらゆる面でレベルがアップしていることに驚いた。参加した時間にもよるかもしれないがアトリウムを有効に使ったオープンスペースは活気にあふれ、ステージイベントでは司会者の存在感と凝った演出が見られた。また環境面に関してもサインや装飾等工夫されており感心した。アンケートによる多くの鑑賞者からの肯定的な意見も納得である。このレベルをベースにさらに上をめざし、広く地域の方々に愛されるイベントにしてほしい。



第11回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2013 西部地区事業(西部地区企画運営委員会)

平成26年1月25日(土)・26日(日) 米子コンベンションセンター

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	イメージづくりや統一テーマの設定により「とりアート」全体像の定着を図り、テーマにちなんだ企画を実施します。	達成 西部地区通年コンセプト「いつものまちで文化する」を継承し、更なる内容の充実をめざし設定した「ichi」のテーマに沿った企画を多く実施し、会場全体を市のように配置し参加者が周遊できた。併せて事前にプレゼンや交流会を通じて参加者と委員同士が「つながる」機会が持て事業全体に一体感を持たせ、「とりアート」の定着を図った。	達成 「ichi」というテーマによる会場配置によって、観客が会場を周遊する動線ができており、会場全体を把握しやすくなっていた。
		実際に触れて体験できる機会、鑑賞できる機会を提供します。また、会期後も参加できるような機会を案内する工夫を盛り込みます。	概ね達成 ステージが中心になりがちな今までの反省点を踏まえ、多種多様なワークショッププログラムを揃え、ワークショップに集中できるような「ワークショップタイム」を両日に2回程度設け、積極的に体験できる機会を創出した。また、会場内では参加団体の活動紹介のパネルを展示し、会期後の参加を促すツールを提供した。	概ね達成 多くのワークショップがあつて親子連れで参加体験して楽しんでいて好評。ワークショップタイムの企画も面白く、評価したい。会期後の活動への参加を促す試みは継続課題。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	子どもが気軽に体験できる機会を提供することにより家族との繋がりを深める企画を実施し参加者層の幅を広げます。なお、実施者と参加者とのコミュニケーションを充実し、事業の意図が伝わるように努力します。	達成 タブレット端末を用いた「ビスケットワークショップ」、液晶パネルを用いた「影絵ワークショップ」など、先進的な機器活用したワークショップや、幅広い年齢層が体験できるプログラムを用意することによって、家族で楽しめる機会を提供した。また、ワークショップタイムを設けることで、じっくり実施者と取り組みコミュニケーションをとれる機会を提供することができ、複数のワークショップを体験する来場者も多く見られた。	達成 多種多様なワークショップあり、親子連れの参加者が多かった。また、それぞれのコーナーがこぢんまりとされていて、実施者と参加者とのコミュニケーションが和やかな雰囲気で行われていたように思われる。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	県内の文化団体と積極的に連携(出演者の相互交流)し、繋がりを深めます。	概ね達成 自主企画事業に地元で優れた活動する団体を選出し、事前の交流会開催等の機会を設け、今までにない出演者同士の交流、連携につながった。成果として実際に複数のコラボレーションが実施され、運営者・出演者同士の相互理解が図られ、準備・撤収作業への出演団体からの動員者も多く、参加者全体で会を盛り上げることができた。また、西部地区以外の伝統芸能継承団体にも声掛けし交流も行われた。	概ね達成 さまざまな文化団体、伝統芸能継承団体が参加・出演することによって相互交流・理解が図られたのではないかと。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	<p>実施団体との運営委員会を立ち上げるなどし、実施者全体での事業内容の更なる周知を図り、事業テーマ、コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。</p>	<p>概ね達成 実施者も含めた拡大運営委員会を開催し、ワークショップ形式で実施者と運営委員との内容の周知を図る機会を設けたことにより、事業意図の周知、相互理解が図られ事業がより充実した。また、実施団体に運営スタッフとして協力依頼しスムーズな運営が行われた。今後課題を整理し、更に実施者と一体となった体制づくりを熟慮することに加え、今後のとりアートへの継続的な参加者となるよう努めたい。</p>	<p>概ね達成 実施団体が参加する運営委員会をつくることは評価できる。昨年に比べて、とりアートやテーマを説明する等の動きがかなりの実施事業で見られた。</p>
		<p>公募企画者に対しPR会、相談会等を行い、応募者の企画内容を事業に沿ったものへとブラッシュアップを試み、質の高い事業となるよう工夫を行います。</p>	<p>概ね達成 PR会では、審査だけでなく委員側から新たな提案を行うなどして質の高い事業となるような手立てを講じた。相談会においても公募企画者にも検討できる環境を与えることで、より良いものにしていこうという意識が芽生え、内容の充実が図れた。</p>	<p>概ね達成 展示の部門でもかなりの事業がワークショップを工夫して行っていたことは評価できる。できればすべての展示部門で工夫がなされることを望みたい。</p>
良質な作品の提供	過去に高い評価を残す実績のある企画を再演化し、テーマや事業意図に沿った更なるクオリティの向上を目的とした創造作品に取り組みます。	<p>広く国内で活動する団体を活用する企画を実施します。</p>	<p>概ね達成 委員のネットワークを駆使し、「バスケットワークショップ」「影絵ワークショップ」など、国内で活躍する質の高いワークショップ講師を招き、地元では普段触れることが出来ないアート体験の機会を提供した。</p>	<p>概ね達成 「バスケットワークショップ」「影絵ワークショップ」等は良質で、しかも子どもも大人も楽しめる好企画であった。</p>
		<p>過去に高い評価を残す実績のある企画を再演化し、テーマや事業意図に沿った更なるクオリティの向上を目的とした創造作品に取り組みます。</p>	<p>達成 自主企画事業に昨年度実施された質の高い公募企画の実施者を選出し、早期から協議を重ね、要望、提案による質の向上に努めた。また、オープニング「米子八景」と書道パフォーマンスのコラボレーションや、エンディングの中学校吹奏楽選抜バンドによる演奏など、質の担保を図った再演化が実現しその反響も大きかった。</p>	<p>達成 オープニングのとり邦楽合奏団の「米子八景」の演奏と米子西高校書道のパフォーマンスのコラボレーションは、琴や三味線の音色と女子高校生の舞いがマッチしてみごとであった。「米子八景」は再演を重ねるごとに進化している。</p>
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	<p>実施者との運営委員会を立ち上げ、事業のブラッシュアップ、当日運営の方法などを協働することで、活動者の育成を図ります。</p>	<p>概ね達成 PR会、相談会、懇親会など、実施者との協働作業は回を重ねる毎に合理的となり、理想的な体制構築が図られた。実施者にも積極的に運営に加わっていただけ、イベント運営の裏側を知る機会を作れた。</p>	<p>概ね達成 実施者との協働体制によって運営等がスムーズになり、昨年と比べて担当者の役割分担などが良くなっている感じがした。</p>

人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	地域や郷土芸能実践団体や高等学校郷土芸能部などの連携により、地方に残る貴重な文化の後継者や担い手を育成します。	概ね達成 東部地区の実施団体も迎え、広く県内の伝統芸能を紹介することができた。また、合同での芸能の紹介を兼ねたワークショップを実施し、周知の機会の提供を図り、文化継承の場となり、来場者も満足な様子が伺えた。	概ね達成 西部と東部の伝統芸能が舞台で紹介され、ワークショップも行われた。高校生の部活としての取り組み紹介は後継者づくりや若い人が興味を持つ意味で良いことだと思う。
		鑑賞者の芸術文化活動につながるようなワークショップを実施し、会期後も活動に参加できる・したくなるような工夫を盛り込み、鑑賞者から活動者になる機会を提供します。	概ね達成 参加・体験の時間を十分確保するとともに、それを発表する場も設定することでワークショップ参加者にとっても、またそれを鑑賞した方にも参加したい・自分でもできるんだと実感していただけた。また、会場内に現在～今後の活動状況インフォメーションの場を設け来場者はそれぞれの状況を確認することで会期後の参加にもつながるよう工夫した。	概ね達成 実際にどのくらいの参加者が活動者になるのかは、長い視点で見ると必要がある。引き続き工夫して努力すべき課題である。
鑑賞者の育成	鑑賞者の育成	幼児期における鑑賞・体験機会の提供など、若年層の鑑賞機会の幅を広げるため、事前の参加募集などを整える等の工夫をします。	達成 幅広い年齢層をターゲットにできるワークショップを計画し、案内チラシの配布を西部地区の小中学校全校、新聞折込み、自治会等へ広く周知するなどして事前募集を行った結果、事前申し込みは少なかったが、当日は配布済みのチラシ持参の来場者でワークショップは盛況であった。	概ね達成 西部地区の小中校全校へのチラシ配布、新聞折込み、自治会への働きかけ等の取り組みがなされ、事前募集も行われたが事前の申し込みは少なかったとのこと。しかし、20歳未満の若年層や親子連れの鑑賞者が多く、一定の成果は得られたのではないかと(アンケートで、催しを知ったのがポスター・チラシという回答が多かったことに成果の一端が伺える)。
		質の高い公演・ワークショップ等を行い、鑑賞者のレベルアップを目指します。	概ね達成 県内外の活躍する方を招き、じっくりと鑑賞する機会を提供できた。県外からのワークショップ招聘に関しては、地元では体験できないようなアートパフォーマンスや体験型学習(ワークショップ)を数多く提供することができ、単なる物作り体験会との違いを感じていただけた。	概ね達成 ワークショップデザイナーや影絵アーティスト等による質の高いワークショップは鑑賞者にも好評の企画であり、もう少し多ければなお充実したのではないかとと思われる。

人材育成	鑑賞者の育成	会場を広く回遊する工夫を設け、ワークショップ実施風景や、作品制作過程を参加者に見せること等により、育成を図ります。	概ね達成 会場を広く見渡せるよう、フラットな空間づくり、案内表示など、空間を意識した工夫に努め、実施者と来場者の視線を同じにしたことで、参加への敷居が低くなりワークショップ等への参加しやすさに繋がった。また、スタンプラリーをプログラムに設け、ゲーム性を加えることで楽しみながら会場内を回遊していただくことができた。一方で音の問題を含め、ステージイベントの共存が継続課題。	概ね達成 コンベンションセンターの特徴を生かした空間作り、スタンプラリーの試み等の工夫があって一定の成果を見ることができる。ただ、仕切りがあるとはいえやはりステージイベントとワークショップの同一会場・同時展開はそれぞれ集中力をそぐという問題があった。
	アートマネージャーの育成	昨年度の未達成事項を再確認し、実施者との意見交換の場を設け質の向上を目的としたアートマネージャーによるアドバイスをすることで育成に努めます。	概ね達成 昨年度のアートマネージャーをサブアートマネージャーとして配置し連携を図り、未達成事項の改善を図った。実施者との交流の機会はできるだけ設けたが、調整が不十分なところもあり一部課題として残った。	概ね達成 2つの平舞台、屋内フードコートを落書きコーナーで区別する、単なる展示を少なくするなど、昨年の体験が活かされ、会場配置に工夫があった。ワークショップを体験だけでなく開会前の準備から見てもらう試みは良いと思うが、鑑賞者にその意図が伝わっていないのではないかと。
経験を有する人材と、次期アートマネージャー候補をサブアートマネージャーに配置し、育成を図ります。		概ね達成 昨年度のアートマネージャーをサブアートマネージャーとして配置し、今年度のアートマネージャーをバックアップできる体制を作り、新しい人材配置による次期以降の人材発掘への試みを行った。また、経験者が育成の観点から運営方法や内容について積極的にアドバイスしており、これからのアートマネージャーの育成に役立った。	概ね達成 司会と裏方としての進行役や、従来のアートマネージャーも積極的に関わっているなど企画委員会の中で確実にマネージャーが育成されてきているように思われた。	
アートマネジメントセミナーなどへ積極的に参加し能力向上を目指します。		一部達成 個人的には参加したが、委員会としての参加は日程が合わなく参加不可能だった。機会が合えば積極的な参加をしていきたい。	評価せず 個人的参加にとどまらず、委員会としての参加に向けての取り組みに努力してほしい。	
技術者の育成	専門家との会場作り等での交流を通して、参加者の技術力の向上に努めます。	概ね達成 委員会の中での専門家からの助言を仰ぎ、実施者とも交流を持って技術的向上を目指した。また、個々のスケジューリング、必要資材などの調整などが作業として優先されるため、専門家からのフィードバック、情報の共有が行き届かない部分が見うけられた。参加者の会場設営への参加や、音響との打合せを通して、イベント企画・運営技術の一端を知る機会となった。	概ね達成 オープニングの書の吊り上げやエンディングのシンボルツリーの灯りなどが良かった。できれば会場上部の使い方などで、フードコートが入り口から分かるなどのもう工夫がほしかった。	

人材育成	支援者の育成	広報・フードコート・子ども向け企画などを通して文化芸術に親しみを持つ人を増やす工夫を行います。	概ね達成 親しみやすさを持ってもらうべく、子供たちの体験できるワークショップを中心に広報するなどの工夫を行い、学校関係に配布したプログラムも効果的であったが、子どもにも判りやすいインパクトのある広報戦略をもっと工夫していく必要がある。落書きコーナー、フードコート、スタンプラリーを通して、滞在時間が増え、芸術に触れる時間を延ばすきっかけをつくることができた。	概ね達成 ご当地グルメの出店も高校生の店から福祉、商業と幅広く、配置も昨年よりも良かった。多くのワークショップで子どもと若い親がたくさん参加していた。この2～3年の中で、一番若い人の参加があったのではないかと。問題は広報で、評価委員の周りの県民がとりアートの地区事業とその内容をほとんど知らない現実があることである。
	育成した人材を活用する場の提供	実施者との運営委員会を立ち上げるなど、参加者同士が横のつながりを築ける場を提供します。	概ね達成 PR会、相談会、懇親会等の場を設け、実施者とざっくばらんな話ができる機会を作ることで、要望を聞くことができ、また実施者同士の相互交流の場を提供した。懇親会や運営スタッフへの参加者の増加を目指すことが課題であるが、委員・実施者同士のつながりが増えたことで、次期からの運営委員になりうる人材とも交流を図れた。ワークショップ形式の運営委員会は理想的なものになりつつあり、本来のワークショップとブレインストーミングが今後さらに重要である。	概ね達成 実施者同士のつながり強化の取り組みを評価したい。
		次年度にまたがる企画など、中長期的プランを検討します。	概ね達成 会場全体で「いつものまちで文化する」を感じることができる場となった。今後もこのコンセプトを続け、会場に新しい文化のまちを創っていきたい。オープニングの「米子八景」を毎年形態を変えたコラボレーション企画とし、西部地区らしい形ができつつある。エンディング、ダンスコンテスト、伝統芸能など次年度につながる企画が固まり、現在既に特色のある中長期プランを検討中である。	概ね達成 「いつものまちで文化する」というテーマ、コンセプトは今後も続け、それを見据えて地域事業のあり方や新しい文化のまちづくりに挑戦して欲しい。今後も会場は米子コンベンションセンターのみが良いと思うという意見もある。
	総括	71.4%	71.7%	

【成果】

- ・米子コンベンションセンターの「多目的ホール吹抜け」の空間をメイン会場としたことは、人の流れを集中するというメリットがあった。また、ステージを2つ設定したのも舞台運営がスムーズにいった良かった。
- ・ステージが鑑賞者とフラットで、実施者と鑑賞者に一体感が生まれた。
- ・オープニングの邦楽「米子八景」と米子西高校書道部のパフォーマンスのコラボレーションは開幕を飾るにふさわしく、みごとであった。「米子八景」は再演を重ねるごとに進化している。
- ・多くのワークショップがあり、親子連れで楽しんでいた。若い子育て世代の参加は近年で一番多かったのではないか。アンケートで、ワークショップの満足度も高い。
- ・高校の郷土芸能部や合唱部、中学選抜バンド等若者に活動の場を提供した。鑑賞者も楽しませ、活動者・後継者の育成という観点からも評価したい。

【課題】

- ・米子市公会堂が使用できず米子コンベンションセンターを使用する他団体との関係もあって(多分)、県の事業としてはこの時期に実施せざるをえなかったことは理解しているものの、実施時期はやはり暖かい季節が望ましい。
- ・「多目的ホール吹抜け」を利用してのステージイベントとワークショップの同一会場・同時展開は、工夫がなされていて人の流れの集中というメリットがある反面、それぞれの集中力という点で問題があり、両者の共存は困難と思われる。固定されたステージを望む声もある。
- ・途中で補充された模様だが、鑑賞者の椅子をもう少し準備した方が良かった。立ったままでの長時間の鑑賞は特に子ども・年配者にはきついものがある。
- ・フラットなステージは面白い試みだがまだ消化不足。メリハリをつけるために総合司会がいた方が良かったのではないか。
- ・パンフレットの早期作成・配布、「とりアート」の事業を県民に知らせる手立ての工夫等広報の工夫が必要。
- ・プログラムのタイムテーブルは一目見て分かりやすかったが、事業のプログラム(紹介)は時間展開との関係が分かりにくく、工夫する必要がある。
- ・アンケートの回収率が28%。昨年度は記入コーナーが設けてあって書きやすい環境が整えてあったが、今年は回収箱がどこにあるのかも分かりにくかった。回収箱(複数あった方がいい)の設置場所等の工夫がほしい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・とりアートが支援してきた「よなご映像フェスティバル」が独立して、平成25年度米子市文化奨励賞を受賞したとのこと。平成25年度単年度での取り組みではないため成果にはあげていないが、団体を育成できたという大きな成果だと考える。



音楽日和ライブフェスティバル2013 vol.15(鳥取音楽座)

平成25年9月28日(土)・29日(日) グリーンフィールド(湖山池北岸芝生広場)

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県内で活動するアマチュアミュージシャンが、県外へ情報発信する場所とする(YouTube等のITの活用による)	達成 参加バンドがそれぞれの演奏風景を SNS などを通じて発信した。 日本海テレビが、ニュースの中でフェスティバル全体の特集を組み放映した。	一部達成 鳥取でなにかやっているという情報発信にはなった。ITの活用に関しては個々の参加者まかせに終わり、充分だったとは言えないため、「一部達成」とする。
		Uターン、Iターンしてきた若者が、県内で活動を継続する機会を提供する	概ね達成 過去のヤングミュージックフェスティバル等に出演し、県外へ進学していたメンバーが、県内で就職して演奏活動を継続している。	一部達成 演奏の場を提供することの意味はあった。
創造	質の高い文化芸術活動	各出演者が、事前にそれぞれでライブ活動を行い、イベントの周知とともに、質の向上を目指す	達成 日本海テレビの24時間テレビの中で鳥取音楽座ステージを、イオン鳥取北店で開催。	達成 事前の取り組みに工夫があったのはよかった。
		ヤングミュージックバトルで選出されたバンドには、プロによるクリニックを受講してもらった	達成 ヤングミュージックバトル終了後、ゲストプロ審査員(講師)によるバンドクリニックを開催した。	一部達成 バトル選出者の演奏の質に関して、クリニックの成果が見えるまで続けてほしい。
		各バンドの代表者が集まり合同演奏することで、お互いの技術を向上させる	達成 2組のセッションステージを行うことができた、また、数回の練習を行い、日ごろ違うバンドで活動しているメンバーが切磋琢磨した。	一部達成 合同演奏には、みんなで楽しむ面と、互いに高めあう面の両面がある。
	県民の参画支援	出演者、スタッフを公募することで参画の機会を増やす	一部達成 今回は公募によって参加したバンドはなかったが、スタッフについては鳥取大学生が積極的に参加した。	一部達成 公募は今後も続けてほしい。
他団体との協力により、地域住民がスタッフとして参画する機会を作る		達成 芝楽フェスティバルと共催したことにより、地元壮年団やスポーツクラブ、青年会議所などと数回の事前会議を設けたり、当日のスタッフとしてお互いが協働した。	概ね達成 複合的なイベントであったことから、必然的に他団体との協力関係が形成された。	

<p style="text-align: center;">拡 大</p>	<p style="text-align: center;">県民の文化活動支援</p>	<p>22歳以下の若者を対象にしたヤングミュージックバトルを、音楽日和出演のためのオーディションと位置付け、若者世代の参加を促す。</p>	<p>達成 ヤングミュージックバトルで選出された2組の若者世代のバンドが参加できた。</p>	<p>一部達成 参加者が少なく盛り上がり欠けたのが残念。若者に対象を絞った活動支援は次世代育成のため大切だが、一方、他の年代に対してのアプローチが手薄なのではないか。</p>
	<p style="text-align: center;">県民への鑑賞機会の拡大</p>	<p>とっとり芝楽フェスタとの共催により、音楽日和だけでなくフェスタへ参加した県民への鑑賞機会を設けた</p>	<p>達成 芝楽フェスティバル自体には、延べ2000人の来場があり、日ごろ鑑賞する機会がない県民へ鑑賞機会を設けることができた。</p>	<p>達成 フェスタ観客分だけ観客が増えたといえるが、フェスタ参加者からみれば、フェスタがにぎわったというだけかも。とは言え、座して待つだけではなくなかなか出会えないであろう観客めがけて、野外へ飛び出して行った積極性を評価したい。</p>
		<p>従来のチラシポスターだけでなく、他団体との協力により、新聞チラシによる告知を初めて行った</p>	<p>達成 芝楽フェスティバルと共通の新聞折り込みチラシを東部地域の日本海新聞、朝日新聞へ折り込んだ。</p>	<p>達成 チラシには参加バンドの名前、場所、日時などの情報が見やすくレイアウトされていた。</p>
		<p>HPを活用することで、低コストの周知を行った。</p>	<p>概ね達成 従来の鳥取音楽座のHPに加え、各バンドのHP、メールリスト等で周知を行った。</p>	<p>一部達成 鳥取音楽座のHPで周知がされている事を確認した。しかし、HPのデザイン等が古く、情報もわかりにくい。HPがどの程度活用されたか中身も含めて検証が必要。</p>
		<p>若者世代では最も重要なツールである、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルネットワークを最大限に活用し告知に努めた</p>	<p>達成 鳥取音楽座のフェイスブックを立ち上げ、事前準備の段階から情報発信を行った。</p>	<p>一部達成 フェイスブックを確認したが、「最大限に活用した」とまでは言えないのでは。情報の内容や量が充分であったか、告知の成果がどの程度あったのか検証したいところ。</p>
		<p>事前にイベント告知のためのミニイベントを商業施設で行った</p>	<p>達成 商業施設(イオンモール鳥取北店)にて、事前の告知イベントを2回開催した。</p>	<p>一部達成 知らない人・興味のない人への情報提供の機会にはなった。イベント当日の集客にどの程度貢献したかは検証が必要。</p>
	<p style="text-align: center;">県民への鑑賞機会の拡大</p>	<p>他団体との協力により、広告協賛金を増やし入場無料とした</p>	<p>達成 約200口の広告協賛先を確保できた。従来は60口程度。</p>	<p>一部達成 広告収入を増やし、無料で鑑賞できるよう努力された事は評価する。しかし、入場無料と鑑賞者拡大が直結するかどうか、検証が必要。</p>

育 成	人材育成 (指導者、 後継者等)	22歳以下の若者を対象にしたヤングミュージックバトルを開催し、またクリニックを併催した	達成 22歳以下の若者を対象にしたヤングミュージックバトルを開催し、またクリニックを併催した。	概ね達成 ヤングミュージックバトルとの連携を評価。しかし、参加者が少なく、演奏の質がどの程度クリニックを反映したのかわからない。
		出演者が演奏だけでなく、企画運営に携わることで、次世代の文化活動後継者を育てる	概ね達成 高校生や大学生も事前の実行委員会に参加し、企画や周知活動に携わった。	達成 出演者同士スタッフとして協力できていた。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	とっとり芝楽フェスタとの共催により、スポーツイベントなどに訪れた子供たち、家族づれにも気軽に音楽を楽しむ機会を与える	達成 芝楽フェスティバルとの共催により、多くの家族づれが訪れ、子供たちも芝生の上を楽しそうに走り回り、音楽を楽しんでいた。	達成 高いレベルで達成。
	総括		90.1%	56.9%

【成果】

- 1、開催を継続できたことが最大の成果。
- 2、広報、PR、運営などさまざまな方法を取り組むことは良いこと。
- 3、他団体との共催を試行したことは悪くない。いろんな団体とのコラボを考える材料になった。
- 4、野外でのステージも例年と違って雰囲気が変わって良かった。

【課題】

来年も無料で開催するのだろうか。有料に戻した場合の反応がどうか。
野外、時間制限がある中で、ステージ演出的にも出場バンドが限られたと思う。

【その他事業に関する意見、感想など】

1. 他団体とのコラボは大いにやるべきではあるが、音楽が添え物になったり、BGMになっては本末転倒。音楽イベントとしての主催者の意識をはっきりと持って行えたかどうかが大切。
2. 今年野外イベントとして行ったことは否定しない。いろんな形態で実施してみることは悪くない。そのうえで、来年度以降どういう形態で実施するかを検討材料にすればいい。
3. 基本的に音楽イベントとしてのスキルアップを図るべきだろう。今年の実績で観客増が図れるかどうか。グリーンイベントの参加者が来年、音楽イベントとして開催したときに音楽日和に足を運んでくれるかどうか、主催者の判断を要する。
4. 開催までの主催者の苦労はよくわかるので、高いレベルで定着する方向性、他の音楽団体との協調性を探りたい。



第37回鳥取県川柳大会(鳥取県川柳作家協会)

平成25年10月19日(土) 鳥取県立倉吉体育文化会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県民としての誇りと自信につながるような事業を推進します。(初めての事として、川柳会の歴史を説明し存在意義を再認識して頂きます。)	一部達成 長年培った鳥取県川柳の歴史を、スクリーンで説明しようとしたが、段取りが悪くこちらが思い描いた結果にはならなかった。	一部達成 初の試みとして、パワーポイントによる県内川柳の歴史の紹介をしたことは評価したい。問題は事前の段取りが悪過ぎたことだ。会場入りしてすぐに、実際に写してみなかったのが原因であろう。次回は準備を整えて取り組んでもらいたい。 川柳はその時代の空気を敏感に読み取るものでもあると思うので、川柳会の歴史の紹介に合わせて、その時代を感じさせる県内の川柳活動者の作品を紹介すれば、さらにおもしろかったのではないか。
創造	質の高い文化芸術活動	県外から著名な選者を招き、レベルの高い事業を展開します。	達成 県外から招へいた選者の方々は著名な選者であり、充分に大会を盛り上げて頂きました。	概ね達成 川柳の素人には、選者の著名度は分かりかねるものの、各選者とも講評がおもしろく楽しめた。選ばれた川柳も「なるほど」と感心するものが多かった。参加者も、メモを取るなど熱心な様子だった。 レベルの高い「事業」とは、作品の質だけでなく、作品を楽しむ環境を整えることも含まれる。満員となった会場の窮屈さという環境も厳しく、呼名係の声が聞こえないという苦情も会場から上がっていた。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	大会チラシを一般向けに解りやすい物とし、又、新聞広告により広く参加を呼び掛けます。	達成 チラシ3,000枚を各地川柳会、公共施設、公民館等に配布し、又、新聞に広告を掲載し、啓発に努めた。	達成 今年はチラシをたくさん作ったと主催者あいさつにあり、来場者が大変多かった。チラシも質素ながら工夫されたものであった。チラシの枚数を増やしたということだけでなく、関係者の広報意識が高まったことが、目標以上の集客につながったのではないか。 新聞広告の取り組みも良かった。
		見学希望者は無料で入場して頂きます。	一部達成 見学者2名があり、無料で入場頂いたが、希望者が少なかった。	一部達成 見学希望者は2名と少なかったようだが、裾野を広げる試みとしては評価したい。見学希望者が無料であることのPRが不足していたのではないか。知られていないシステムでは実施していないに等しい。継続することで認知度が上がると思うので、PRをして続けてほしい。
育成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	ジュニア部門を設け、参加料無料として参加しやすい環境をつくり、又、大会誌を発行して作品を鑑賞出来るようにします。	達成 遠くは青森県からの応募も含めて、711句の応募があった。各学校には入選者を速報として送った。正式な大会誌は、現在作成中。	達成 小・中学生から川柳を募集し、遠くは青森県から応募があったという。表彰式では、子どもたちのうれしそうな顔があった。 大会誌は作成中とのことで、その送付先と部数が不明ではあるが、多くの先に配布されることを望む。
総括			73.3%	66.7%

【成果】

- ・主催者の予想を超える参加者があった。ほとんどは何らかの結社に属している人たちだが、それでも県の川柳大会に参加して研鑽を積もうという熱気が伝わってきた。開催告知の努力の賜物であろう。
- ・今年度の文芸系3事業(川柳、短歌、俳句)で最も多い来場者となったことを評価したい。開催する以上は、より多くの参加者(来場者)に作品に触れてもらう必要があり、大きな成果だ。
- ・具体的に何が最も効果的だったのか(例えば、チラシ配布先が良かったとか、配布時に十分な説明をしたなど)を分析して、次年度以降につなげてほしい。
- ・アンケートの声に「看板が綺麗」とあった通り、会場1階外の看板はデザインもよく、分かりやすい位置に設置されていた。
- ・看板、あいさつの中に、とりアートの参加事業であることが盛り込まれ、過去に課題として指摘されたことを改善しようとする姿勢が見られた。また、受付の対応が以前より良かった。
- ・投句された川柳のレベルの高さを感じた。選者の話も面白く、会を盛り上げていた。
- ・子どもたちの川柳を募集し、表彰したのは良かった。

【課題】

- ・活動者や鑑賞者がやや高齢がちなのは文芸ジャンルの特性であり、やむを得ない面もあるが、人材育成面(後継者)についての目標設定がなかったのは寂しい。
- ・子どもたちには学校場で作品づくりの機会もあるが、40~60歳代の活動者をどう増やすか。サラリーマン川柳が人気であることを考えると、川柳は潜在的な活動者や鑑賞者がまだまだあると思われる。それらを発掘する取り組みを期待したい。
- ・予想を超える参加者ということで、会場が狭かった。アンケートでの不満も、多くはこの点に集まっていたようである。会場設定については、いろいろな面で難しいと主催者からも聞き、理解できる場所であるが、参加者にとっての最善を目指してほしい。
- ・当日の運営面については、参加者が想定外に多くて混乱した面もあると思うが改善の余地があると感じた。プロジェクターの件以外にも、進行においてもたついた面がみられた。
- ・来場者には高齢者が多いが、かなり年配の方がフウフウ言いながら手すりにつかまって階段を上っておられる姿を一度ならず見た。また、実際に会場1階でエレベーターの場所を探す高齢者夫婦がおられて、体育館側にあることをお伝えした。これら想定される来場者へのエレベーターへの案内が不足していた。(例:チラシに明記、会場1階に案内サインを設置、会場外の看板に記載など)。
- ・ほかにも、小学生の被表彰者(親子連れ)が来場した時には受付ブースが終了しており、被表彰者がどうしてよいかとまどう姿もみられた。
- ・これら運営面での参加者への「おもしろい」をもっと充実させ、安心して参加できる体制を構築してもらいたい。ただし、最初の受付の段取りはとても良かった。
- ・川柳の歴史紹介のプロジェクター投影がうまくいかなかった原因は、会場入りしてから時間不足などで試写を怠ったのが原因であろう。何事につけ、しっかりと準備と確認を心がけてほしい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・参加者の年齢層は高く、60代は若手だと、ある選者の方も言っていた。これはジャンルの性格からいって自然なことなのかもしれない。無理に若者にアピールするよりも、中年~熟年世代に広げていくのがいいのかなと思う。
- ・一方で、子どもたちへの教育や宣伝は大切なことで、それをしようと努力している県の川柳会は意欲的だといえる。
- ・パワーポイントの内容はしっかりしていたがプロジェクターの段取りが悪かった。パソコンや各種機器の扱いについては不得手な人が多いと思うが、中には使える人もあると思うので、そういう人の力を借りて、いっそう充実した催しにしてほしい。



第42回鳥取県短歌大会(鳥取県歌人会)

平成25年10月27日(日) まなびタウン東伯

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
拡大	県民の文化活動支援	広く県民から短歌を募集並びに優秀作品を表彰する。合評会を開催し、短歌愛好者の拡大を通して文化芸術活動の裾野拡大を図ります。	概ね達成 「鳥取県短歌大会」を開催し、広く県民から短歌を募集した。優秀作品を表彰するとともに、「応募短歌作品集」を作成し、県内図書館、小中高校等に配布した。	概ね達成 合評会は分科会形式であり、各会十数人という少人数規模で応募者同士の意見交換、選者による助言、解説が行われている。 しかし、以前よりも応募数が減っており、小中学生の応募も決まった学校に限られる傾向があり、裾野の拡大が図られているとは言いがたい。
	県民への鑑賞機会の拡大	短歌大会の開催案内、チラシ、ポスターを作成し、県内の学校、各種施設等に配布し、広報に努めます。	概ね達成 「鳥取県短歌大会」の開催案内、チラシ、ポスターを作成し、県内各所に配布、掲示して広報に努めた。	一部達成 広報活動の取り組み不足を感じる。これまでの広報手段に見直しが必要。 ポスター、チラシの配布だけにとどまらず、後援団体を利用し、行政放送を行ったり、短歌の魅力がより伝わるような手法を加える必要がある。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	県外講師を招いた講演会を開催し、自己の研鑽を図る機会を提供します。	概ね達成 仏教大学教授で歌人、俳人でもある坪内稔典氏を招いて、歌づくりの楽しさについて講演を行った。	概ね達成 講演は短歌になじみの薄い人にも興味深く、面白い内容だったが、聴講者が少なかった。中学生以上なら参加させても十分理解できると思われる。 講演の内容から、指導者や後継者の「育成」というよりも、短歌を身近なものとして捉えてもらうための「拡大」と位置づける方が良いのではないかと。別途、指導者や後継者の育成に寄与する取り組みも行ってはどうか。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	小中校生から短歌を募集し、優秀作品を表彰します。	概ね達成 県内小中高校生から短歌作品を募集し、優秀作品を表彰した。「応募短歌作品集」を作成して、小中高校に配布した。	達成 受賞した作品はすばらしく、このような大会で表彰されたことは励みとなり、将来につながる。 表彰式の段取りも良くなってきている。 応募数は減少傾向にあるが、短歌の魅力に気づき、取り組む学校を増やしていけば改善すると思われる。
総括			66.7%	66.7%

【成果】

- ・表彰式の運営について、昨年は段取りが良くなかった部分があり、被表彰者の動線などについて具体例を示して改善を求めたが、今年度はその点がしっかりと改善されており、全体の運営もスムーズな展開であった。
- ・受付の担当者やイベント運営者全体の雰囲気は「短歌初心者」を歓迎している様子で、分科会にも非常に入りやすい雰囲気作りがなされていた。
- ・短歌を募集し、表彰、講評するという一方的なものでなく、分科会のように互いの作品に対し、意見を交換する機会が設けられているということは、より短歌の魅力や理解が深まる良い手法だと感じた。
- ・県民や小中高生からの作品募集は定番化しており、ある程度浸透していると感じる。これまでの地道な成果の賜物である。文芸系は派手に目立つことは少ないかもしれないが、引き続き地に足をつけた活動で裾野を広げてほしい。
- ・毎年、素晴らしい講師を招いての講演は楽しみである。今回も、短歌と俳句の違いを分かりやすく面白く解説していただき、楽しく聴くことができた。

【課題】

- ・多くの人に短歌の魅力を感じてもらうためにも、分科会や講演会の来場者を増加させることが必要。せっかくの良い催しが、70-80人ではもったいない。広報活動を見直さなければならない。
- ・講演に関する資料が配られたが、各所に誤字脱字があり、かなりずさんだった。言葉や文字を大切に扱う短歌であるからこそ、事前の校正を念入りにする必要がある。
- ・表彰式で、受賞者の登壇の仕方は良かったが、降壇の際にはっきりと誘導がなされておらず、右往左往している様子が目立った。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・アンケートには交通の便の良いところでの会場選定を求める声があったが、「まなびタウンとうはく」は、概ね鳥取と米子の間にあり、JR 浦安駅から徒歩1分、国道9号線から車で1分、山陰道琴浦東 IC からでも車で5分足らずで、駐車場の台数にも全く申し分がない。つまり会場の交通の便はむしろ良いと言える。しかし、会場が中部地区であるため、一般参加者も中部地区、とりわけ倉吉の住民が多い可能性が高い。試しに倉吉未来中心または、倉吉交流プラザでの開催も取り組まれてみても良いかもしれない。とはいえ、なによりも魅力的な催しであるかどうかが集客の大きな鍵となる。知名度の高い講師と質の高い作品、そして広報面での努力で、多くの県民に短歌の素晴らしさを伝えられるよう期待している。
- ・同じ鳥取県民の作った短歌でも、生きてきた経験や地域、時代の違いによって、同じ短歌でも詠む人が変われば、解釈の仕方が変わったり、知らないことが出てきたりしていた。例えば、地名や行事名が出てきた時、中部に住んでいる人は西部のことが分からず、全く違った解釈をしていたりと、その様子が分科会の中で浮き彫りになっており、互いの理解を深め合う交流の場にもなっていると感じた。短歌の面白さが伝わってくるイベントである。



吉月をどり(鳥取県日本舞踊連合会)

平成25年11月3日(日) 鳥取市民会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	子供の伝統芸能活動の発表の場を設けます。(公募による体験教室)	未達成 応募した児童のスケジュール(習い事が多い)に合わせる事が難しく、日程が思った程とれなかった。	一部達成 多くの人に見てもらえる場としては良い。地域の伝統芸能の継承を考えるのならば子供たちのクオリティを上げるか、観客も一緒に行うことができるような声掛けがあっても良い。
創造	質の高い文化芸術活動	質の高い新作を創作・振り付けします。プロとの連携により事業の質の向上に努めます。	達成 日本舞踊を基礎とした創作舞踊は、違和感なく受け入れられた。	概ね達成 創作曲、若手の踊りがアンケートでも好評のようで良かった。伝統や基礎を大事にししながら、日本舞踊に新しい息吹をもたらしてくれることを期待する。
		障がい者や高齢者の席を確保します。	概ね達成 利用しただけ。	概ね達成 席の確保をしたこと、利用者があったのは良かったが一般客にも障がい者や高齢者の席だと分かるように提示してはどうか。
		県民の参画支援	広く県民への周知を図るため、他の事業のプログラムへのはさみ込みも依頼します。	概ね達成 ポスター、チラシ等を商店、会館に配布したほか、邦楽、狂言の会にはさみ込みができた。
		入場無料を続けるため、広告料金等の獲得に努力します。	概ね達成 広告を社中割り当てで集めることができた。	達成 広告料獲得の努力は評価できる。今後も期待する。
拡大	県民の文化活動支援	日本舞踊入門のためのワークショップを行い、県民が文化芸術に触れる機会を提供します。	達成 大変好評で充分楽しんでもらえた。	概ね達成 観客も興味深く話を聞いており、楽しそうに見えた。日本舞踊をわかって頂くには日本舞踊で必ず使う所作などの説明の方が良かったのではないかと。また長い舞台なので、もう一回くらいワークショップが欲しい。
		高齢者の生きがいの場を支援します。	達成 活躍できる場ができた。	評価せず 評価委員会において具体的な検証ができなかったため「評価せず」とする。
	県民への鑑賞機会の拡大	日本舞踊事業の鑑賞機会が少ない若い人を取り込むよう工夫します。(創作曲を入れる)	未達成 三味線、鳴り物、シンセサイザー等による新しい音曲に振付した作品は老若男女に楽しんでもらえたが、若い人の集客にまではいたらなかった。	未達成 出演者が集客の努力をしなければ新しいものを取り入れても集客には結び付かない。若い方の感想を頂くことで次へつなげることを出演者自身が自覚していただきたい。 若年層の出演が続けば若い人も見に来てくれるようになるのでは。また来場してから他の踊りも見てもらえるような工夫も必要ではないか。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	ワークショップ等を行い、若年層の育成に努めます。	概ね達成 実施者も学べた。	概ね達成 子供たちの一生懸命さが伝わってきた。また熟練度の差も分かり、楽しめた。

育成	人材育成 (指導者、 後継者等)	若年層、若い人の育成 を行います。	概ね達成 創作曲で学ぶことができた。	概ね達成 小学生、中学生、高校生とそれぞれの「らしさ」が見える踊りが見えて良かった。 創作、古典にかかわらず日本舞踊を学び、伝えていける若者が増えていくことを期待する。
		公演当日は円滑な会場運営を行うよう工夫します。	未達成 ドアマンも配置して出入りの規制を行ったが、マナーが悪すぎる。	未達成 ドア前、駐車場係をできれば作った方が良い。演技中の音とび、アナウンスの不手際、観客のマナーの悪さが目立った。ビデオ、カメラ撮影などは決まった場所を設け、演目中のマナーの呼びかけも必要ではないか。
		総括	57.6%	53.3%

【成果】

- ・伝統芸能に触れる場と発表する場を提供できていた。
- ・育成事業として若い方の踊りがあり、創作曲を取り入れるなど、次世代の踊り手を育てようとする試みは評価できる。
- ・観ている方としても古典的な踊りばかりだと飽きてしまうので、若々しい踊りが取り入れられていたのは良かった。
- ・育成事業に対する評価はアンケートでも高く、ワークショップを取り入れるなど、プログラムに工夫がなされていた。
- ・幅広い年齢に向けてアピールする努力が感じられた。
- ・広告をとって資金を作られる努力は今後も続けていただきたい。
- ・この発表の場がもてたことでご高齢者の生きがいにつながっていくのは良いことだと思う。

【課題】

- ・無料にもかかわらず、観客が少ないのが残念。内容は充実してきていると思うので、広報・集客に一層力を入れていただきたい。
- ・アンケートの回収率を上げる工夫を期待する。
- ・アンケートを見る限り本来の舞踊に対して、「長い、飽きる」「演歌が良かった」「長唄ばかりで退屈」という方がいるということは、日本舞踊をあまり知らない方が鑑賞者に多いと思われる。鑑賞者のグレードアップにワークショップの時間を取られるならなおさら、日本舞踊の見方や所作のレクチャーも必要かと思う。
- ・観客のマナーが悪かったので何度かアナウンスで呼びかけるなどをして向上させることが必要。また人の演技中はきちんと鑑賞することを出演者、その家族も含めて意識していただくことが必要だと感じた
- ・演技中の音飛びやアナウンスの不具合はスムーズな進行とは思えず、本番を迎えるにあたりもう少しそのあたりの練習も必要。
- ・出演者は出ることだけを目的とせずお客様に足を運んでいただく努力もしなければ自己満足であとにつながらないと思う。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・長い公演の中で休憩が一度しかないのは観客にとって負担かもしれない。
- ・民謡舞踊や歌謡舞踊を日本舞踊と思っている方にとって古典は難しく長いものと感じるのは仕方がないが、反対に古典を見たいものにとっては間に歌謡舞踊が挟まると居心地が悪く感じる。演目や順番を少し工夫すると、日本舞踊の会が長いものなのだという理解につながるのではないか。



鳥取県和太鼓連盟コンサート「和太鼓ふるさとの響2013」(鳥取県和太鼓連盟)

平成25年11月10日(日) 倉吉未来中心 大ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	子供の伝統芸能活動団体の発表の場を設けます。	概ね達成 小学生を中心とする2グループ(米子市の尚徳子ども連、倉吉市の打吹童子ばやし)が力強い太鼓演奏を披露した。	概ね達成 子どものグループもよく練習を積んでおり、熱意が伝わってきた。子どもに演奏披露の場を提供できていた。
		地域の歴史を題材として取り上げた、事業(太鼓演奏)します。	概ね達成 米子がいな太鼓保存会が、歴史(約450年前の中国地方に伝わる、戦国時代の毛利と尼子の戦いのイメージを見事に太鼓で再現した。他にも、神話の里八上姫太鼓1300年前の古事記編纂をイメージして演奏した。	概ね達成 山中鹿之助や古事記神話など地域の歴史にちなむ作品を演奏した。ゲストの打吹童子ばやしの「新・八賢伝」もそうである。 ただし、この項目では、下記の「鳥取の文化アイデンティティの確立」の「地域の風土に根ざした題材」とかぶるので、下記項目に包括してもよいと思う。
鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県民としての誇りと自信につながるような事業を推進します。	概ね達成 其々の団体が、地域の風土や地元の歴史、風景を題材として太鼓演奏を、力強く行った太鼓をうつくことができた。	評価せず 具体的に、何が「県民の誇りと自信につながる」ものなのかが分からないため、「評価せず」。
		それぞれの出演団体が、地域の風土に根ざした題材を取り上げ、それをイメージした事業(太鼓演奏)します。	概ね達成 地域に古くから伝わる伝統行事や地域の風土をイメージした曲を太鼓演奏で披露できた。	概ね達成 ほとんどの団体が、地域の風土に根ざした作品を演奏した。それぞれに個性があり、3時間の公演がそれほど苦にはならなかった。
創造	質の高い文化芸術活動	連盟に加盟していない異なる芸能団体(ゲストの出演団体)との連携等を通じ、質の高い作品を提供します。	概ね達成 ゲスト出演の因拍音は、津軽じょんがら節を歌の高度な三味線演奏を披露し、他の出演団体及び、当日の聴衆者から、かなりたかいレベルで好評を博していた。	概ね達成 「因拍音(インパクト)」のレベルの高い津軽三味線の演奏があったことで、全体の空気のバランスも良くなった。小泉和子さんの伸びやかな唄も素晴らしかった。打吹童子ばやしも、子ども太鼓とはいえ、しっかりと練習しているのが伝わり、両者のゲスト演奏は大変良かったのではないかと。

創造 創造	質の高い 文化芸術 活動	これまでの合同演奏「わかとり」に加えて、民謡「貝がら節」を出演団体によるパフォーマンス演奏をします。	概ね達成 これまでの、県連和太鼓連盟唯一の「わかとり」の導入演奏で始まり、最後は、全国的に有名で鳥取県が誇る民謡「貝がら節」を県連加盟団体がそれぞれアレンジし、楽しく威勢よく独自の演奏を披露した。	概ね達成 新たな合同演奏に取り組まれた姿勢は良い。最後の盛り上がりにはなったが、もう少し練習を積んで完成度を高めてほしいかった。
		異なる芸能団体(ゲスト: 因拍音、打吹童子ばやし)、との連携等を通じ、県民の鑑賞機会の拡充を図ります。	概ね達成 当日は土砂降りに近い雨でしたが、会場近辺の高齢者が多く集まっていた。また、若い人たちも多く聴衆していただき、文化に触れる絶好の機会となった。	一部達成 この目標達成のためには、「因拍音(インパクト)」と「打吹童子ばやし」の固定客に対して、和太鼓連盟として具体的にどのようなアプローチをしたのかを示さないといけない。例えば、両団体の顧客に和太鼓連盟公演にゲスト出演する内容のDMを送ってもらって費用を負担したとか、両者の公演時に和太鼓連盟関係者が出演してゲスト出演することを観客に直接PR するとか。ただし、打吹童子ばやし出演者の家族や友人への周知は図られたと思うので「一部達成」とした。
県民への 鑑賞機会 の拡大	広く県民への周知を図るため、ポスター・チラシ・入場整理券のほか、新聞折込やCATV など、様々な媒体を利用した効果的な広報に努めます。	一部達成 アンケート結果を見れば、新聞折込を見て当日来場いただいた方々も比較的多くあった。また、今年度は、入場整理券を作成し、広く文化に触れる機会をPRできた。	一部達成 広報面については、ポスターやチラシは当たり前であり、入場整理券はあくまで「入場整理券」であって、公演日時が記載されてはいても、それ自体が絶大な広報媒体力を持つものではない。マスコミの活用など多角的な広報に取り組まれてはどうか。	
		手頃な料金で鑑賞できるよう広告料や寄付金等の獲得に努力します。	一部達成 例年以上の広告を集めた。(プログラムのページ数を増やした。)当日、寄付金箱を設けたが、その反応はあまり芳しくなかった。	概ね達成 広告はわりと多く取れていたし、協賛もかなり集めておられる。寄付金の箱は置いても元々集まりにくいものである。

育成	人材育成 (指導者、 後継者 等)	事業全体をコーディネートする指導者の育成を行います。	概ね達成 今回は、倉吉を中心会場としたため、コーディネートは倉吉打吹太鼓の若者に託した。リハーサルでは若干戸惑いがあったが、関係者との連携で概ね意図する演奏会となった。	概ね達成 コーディネーターの名前をプログラムに明記すべきだ。 高齢化が進む文化団体の中であって、和太鼓連盟は若い活動者を次世代の指導者として育てておられるように見受けられる。引き続き育成に取り組んでほしい。
		公演当日は適切にスタッフを配置するとともに、県連団体が一致協力して、円滑な会場運営を行うように工夫します。	概ね達成 倉吉打吹太鼓を中心とするメンバーと、ボランティア関係者の連携で適切な運営が可能となった。	一部達成 スタッフ配置は適切であったが、アンケートによると、スタッフ関係者の動きが観客の心証を害した面がみられる。この点は改善してほしい。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	子どもが鑑賞しやすいような料金設定を行います。	達成 演奏会の入場料を無料設定とした。	達成 入場無料は鑑賞しやすいので達成。 中高生にもっと鑑賞してもらうよう PR を。
		総括	63.9%	60.6%

【成果】

- ・和太鼓のイベントだが、ゲストの三味線や歌があったり、踊りがあったりとバラエティに富んで、鑑賞しやすい良いコンサートだった。ただし、団体によってはもっと研鑽を積んで向上する余地があると感じた。
- ・若手の指導者育成も引き続き注力してほしい。
- ・ゲストの2団体も良かった。連盟外との連携による活性化は重要。
- ・終演後、出演した子どもたちが整列し客に大きな声でお礼を言っていたのは良かった。子どもは礼儀を学べるし、客も気持ちよく帰路についていける。

【課題】

- ・当日のプログラムについてだが、会長あいさつに1ページ、倉吉市長のあいさつに1ページを割いていながら、出演者と演奏曲の紹介は合わせて2ページしかない。観客がプログラムに求めるものは、市長の顔写真入りのあいさつ文だろうか？それよりも出演団体名だけでなく、実際の演奏者の名前をプログラムに記載する方が、「誰が演奏しているのか」が分かってよい。
- ・また、ゲスト出演の打吹童子ばやしの演奏曲について、作品名や団体名の間違ひは当該団体に対しても観客に対しても失礼なので、十分注意してほしい。
- ・エンディング演奏が始まる前に子どもと大人がどっと外に出してしまった。終演後1階で子どもたちが並んで観客を見送っていた。このために退場したのかと納得はしたが、静かに退場してほしい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・観客マナーについて、アンケートにも指摘があったが、確かにマナーの良くない観客が見受けられた。自分の知り合いが出ている団体の演奏だけを観られれば良い、という様子で、他の団体の演奏時に話をしたり席を立ったりする姿を見て残念に感じた。
- ・終了時刻を少し回っていたせいか、フィナーレの際の幕を下ろす速度が速いと感じた。余韻を持たせた方が良いのでは。



鳥取県三流合同謡曲仕舞大会(鳥取県謡曲連合会)

平成25年11月16日(土) 鳥取市文化ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	異なる流派による合同謡曲仕舞大会の開催を通して、互いに刺激を与え合うとともに、伝統芸能の継承の気運を高めます。	一部達成 初期の目標は達成したと言えるが、自己満足に終わった面は否めない。	概ね達成 出演者が随時客席で、鑑賞者として参加する姿が見られた。以前は見られなかったことであり、改善されたことを評価する。 今後も継続が望まれる。
		子どもの発表の場の提供	未達成 当日学校の出校日と重なり、残念ながら子どもの出演は実現しなかった。	未達成 今年度は児童生徒の出演はなかった。学業とのバッティングとのことで致し方ないことではあった。 後継者育成のために日頃取り組まれていることや、練習風景などを、パネル展示等でもアピールする事はできなかったか。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	能楽に関する資料(能面等)を展示するなど、能楽に興味を持ってもらえるよう工夫します	一部達成 能面等資料の展示も行ったが、少々狭かったこともあり、説明等が不足して初期の目標を達成したとは言えない。	概ね達成 能面・衣装の展示は、小規模ながら受付脇の目立つ場所で行われ迫力があつた。 能狂言に関する解説のペーパーや、演目の解説等が準備され、鑑賞者に興味を持ってもらう工夫が随所に見られた。 もう少し詳細に、見どころや聴きどころをわかりやすく解説し、鑑賞者に配慮されるとなお良かったと思う。 これらの取り組みに対する情熱は高く評価したい。
		能、狂言の歴史の解説、能の囃子の実演により関心を深め、鑑賞者の拡大に努めます。	未達成 せっかくプリントを用意して待機していたが、進行がずれて時間がなくなり、割愛の止むなきに至った。来年はぜひ実施したい。	一部達成 舞台上で行われるはずだったワークショップが進行の都合上全てカットされ、非常に残念であった。 しかし、能狂言に関する解説のペーパーや、演目の解説等が準備されており、一部達成と評価する。
総括			16.7%	41.7%

【成果】

- ・積年の課題であった看板設置や受付への人員配置、出演者が互いに鑑賞しあう姿勢などに大幅な改善が見られた。
- ・プログラムに演目の簡単な解説が記載され、鑑賞者の理解に役立った。
- ・ロビーに能面や衣装の展示を行い、能狂言の鑑賞者拡大への取り組みを行った。

【課題】

1. 進行管理に課題を残した。

せっかくのワークショップの試みを、時間の都合で割愛したのは残念と言う他ない。ワークショップを楽しみに来ていた観客もいたようで、数分でも行う事はできなかったのだろうかと悔やまれる。

カットした演目については観客に伝える事が必要だし、演目終了後、観客がまだ客席にいるのに片付けに入るのいかがなものか。

今後について、演目を整理し(例えばであるが、一公演中に「松虫」が3回も演じられる必然性は感じられなかった)、より鑑賞者の立場に立ったプログラムを構成されてはいかがだろうか。

また、各出演者の持ち時間をあらかじめ徹底通知するなどして、進行をコントロールするよう工夫されたい。

2. 一般の鑑賞者が少なく(目標 300 に対して実数 30)、加えて観客アンケートでの満足度が極めて低い(アンケート回収 15 件中、「不満 2」「とても不満 12」で、不満が 93%)。

3. 「育成」分野でも目標設定を。

【その他事業に関する意見、感想など】

謡曲・仕舞という、歴史ある芸術をになう誇りを持ち、人材育成・技能の伝承や鑑賞者の維持拡大に、より積極的に取り組んで欲しい。

そのためにも、ぜひ観客の目線に立ったイベント運営に心を砕いていただきたい。より多くの人々に鑑賞されることで、技能も向上し、後継者も育つ事が期待される。



「ダンスの日」記念 ダンス交流会(鳥取県ボールルームダンス連盟)

平成25年11月23日(土・祝) ゆうゆう健康館けたか

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	プロのデモンストレーションを通じてダンスの芸術性をアピールし、質の高い作品を提供します。	達成 観客を魅了したプロのデモンストレーションによって、改めてダンスの健全なスポーツ性と芸術性をアピールできた。	概ね達成 プロの見事な演技も披露できた。観客は愛好者(関係者)だけで一般の見学者が少なかった。
拡大	県民の文化活動支援	初心者または未経験者のための体験レッスンのコーナーを設け、県民が文化活動に触れる機会を提供します。	概ね達成 初心者の参加はあったが、全くのダンス未経験者、見学者が少なかった。	概ね達成 初心者体験レッスンは初心者でも短時間で簡単なステップができるようになった。少し遅れてきた人は途中参加は入りづらいので声掛けがあれば良かった。
	県民への鑑賞機会の拡大	ダンス教室、サークル、公民館、小中学校、新聞社等の広報活動に努める。	一部達成 ダンス教室、サークル以外の広報活動が十分ではない。	一部達成 一般の見学者が少なく、とても県民の鑑賞とはほど遠い。ダンス教室以外へのPRが不十分。チラシを配布してもその後のもうひと押しに工夫を。どこで案内がされていたのか行くまでチラシなど見る機会はなかった。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	平成24年度から中学の体育の授業でダンスが必修化されたことに伴い、県内の小中学校の先生方に参加を呼びかけ、人材育成を図る。	未達成 県内小中学校にチラシを配布したが、参加者はいなかった。	評価せず 学校教育のダンスとボールルームダンスは直接結びつかないと思っている人が多いのではないかと。
		ミニダンス講習を行い、レベルアップを図る。	一部達成 参加者は多かったが、内容が少し難しいとの意見あり。	一部達成 ミニダンス講習は内容が少し難しかったという意見もあったようだが、工夫して今後も継続してほしい。
		ジュニアのための演技発表の場を提供する。	一部達成 県内ジュニア教室1軒のみの参加しかなかった。	一部達成 3組の参加があったが、ジュニア教室1軒のみだった。全体的に他ジャンルのダンス発表より愛好者が少ないこともあるのか参加者が少なくレベルの向上も望まれる。グレードの高いものを鑑賞させてレベルアップすることも大事だと思う。
		総括	44.4%	46.7%

【成果】

- ・プロの高度な演技も見られ交流会が盛り上がった。
- ・初心者も経験者も交流しながらダンスの楽しさが伝わってきた。高齢者でも続けられるダンスとして一般にもっと広まると良い。
- ・子どもから高齢者まで幅広い年齢層の交流ができた。
- ・会の進行中にアンケート協力のインフォメーションも入り、回収率のアップにつながった。

【課題】

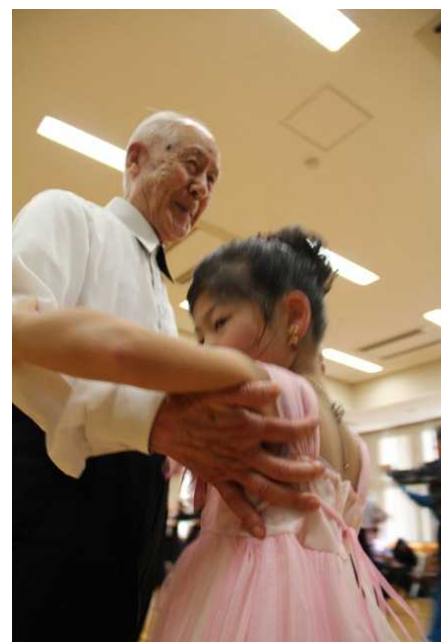
- ・会場が分かりにくい。特に会館の中に入ってからが分かりにくかった。入口の扉が閉められているとなんとなく入りにくいので開けて入って良いという案内があった方が良い。身内以外の来場者を意識して運営してほしい。
- ・出入り口が1か所しかなかったようで、出入り口付近が混みあって大変だった。休憩に出る人、帰る人、出演待機の人、アンケートを記入する人などが1か所に集中していたので、アンケート記入台の場所に一考を。
- ・ダンス愛好者(関係者)の交流会であって県民が鑑賞する催しにはなっていない。一般の見学者が来ても入りにくい。部外者に対する配慮に工夫を。

【その他事業に関する意見、感想など】

個人的な意見ですが、年齢が高くなるにつれほかのジャンルのダンスからは足が遠のいているダンス愛好家でも、私が実際そうであるようにボールルームダンスにもっと参加したい方がいるのではないかと思います。

評価委員として参加しなかったらこのようなことが行われていることに気づくこともなかったかもしれない。

体を動かす楽しさ、コミュニケーションをとりながらの動き、会が小さくても回数を重ねていけば参加する機会も生まれ普及につながって行くのではないかと感じる。



第18回鳥取県俳句大会(鳥取県俳句協会)

平成25年11月24日(日) 倉吉交流プラザ

文化芸術事業評価シート(県・県連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	自然豊かな鳥取県を題材に地域文化アイデンティティの確立に努めます。	達成 季節を詠む俳句。地域の自然を詠み、鳥取県ならではの句が数多く見られた。	概ね達成 自己評価にある通り、県内で目にした自然などを詠んだ句が見受けられたが、地域文化アイデンティティを確立したかといえ、まだ及んでいないように感じる。
創造	質の高い文化芸術活動	流派を越えた連携、協働事業により作品を公募し、文化の向上に努めます。	達成 各流派における選者の選考で、質の高い句が見られた。	達成 流派を超えた連携による大会を開催し、公募しているため目標達成である。(しかしこれは、目標というよりも大会の前提であるようにも思うのだが。)
		大会において、優秀作品を表彰します。	達成 表彰状を受けた子どもさんの笑顔がすばらしかった。今後の自信になると思われた。	概ね達成 表彰式の段取りが極めて悪い。被表彰者(子ども)に動線や並び方を事前に伝えておかないといけない。来賓の福井教育長(倉吉市)が、見兼ねて子ども達を誘導しておられたが、主催者としては恥ずかしいことである。単なる表彰ではなく「式」である以上、セレモニーであり、観客がいる。その観客を意識していない段取りと運営では、入場者にも被表彰者にも失礼ではないだろうか。また、子どもには名前を呼ばれたら返事をするよう、事前に伝えておくほうが良いのではないか。
		作品集を作成し、審査結果を公開します。	達成 応募者及び応募校へも今後活用してもらうよう全員分作品集を配布した。	達成 立派な作品集を作っており、達成ではある。(審査結果の公開は当然ではないのか? それは目標とすることなのか?と疑問。無理に全て目標設定をしようとしなくても良いのではないか。
県民の参画支援	俳句を募集して、大会参加できない高齢者の方、児童生徒の方へも句で参加してもらおう。	達成 大会に参加できなくても投句して作品集により参画鑑賞できた。	達成 募集をするのは、一般の県民が参加できる良い機会を提供しており、達成といえる。	
	新しく俳句を始めた県民へ、近くのサークル等紹介コーナーを大会当日設置します。	概ね達成 「楽しみながら俳句を作ろう」と大会当日コーナーを設置したが、会員以外は1名のみ参加であった。	一部達成 1名のみ参加は残念であった。しかしそれはニーズの少ない、あるいはニーズをとらえていないコーナーであったということであり、それが分かっただけでも成果のひとつ。 次年度は別のアプローチを模索してほしい。そもそも会員以外の一般県民の入場者が少ない現状では、このコーナーは有効でないのだろう。	
拡大	県民の文化活動支援	俳句大会に出席して互いに研鑽する場とし、初心者にも興味を持ってもらうよう努めます。	概ね達成 出席者は互いに句を披露し研鑽する場となったが、初心者の参加が少なかった。	概ね達成 自己評価にもある通り、初心者の参加が少ないのは残念。 一方で、休憩時の一般入場者の会話に耳を傾けていると、互いの研鑽の場として機能しており、大会が技術と意識の向上に大いに役立っている。
	県民への鑑賞機会の拡大	広く県民への周知を図るため様々な媒体を利用した効果ある広報に努めます。	一部達成 地域にあるサークル及び公民館等へ呼びかけた。	一部達成 チラシの内容が句の募集に主眼を置いたもので、大会当日の参加を積極的にPRするチラシではなく、街中で見かけることもなかった。しかし、役員が新聞社に直接記事の依頼に行くなど、広く県民の目にとまるための積極的な姿勢もあった。

育成	人材育成 (指導者、後継者等)	地域の公民館、各サークル等を通じて新人の発掘及び育成に努めます。	概ね達成 会員の地域での活動の中で呼びかけを行った。	一部達成 呼び掛けをただけでは新人発掘や育成を行ったとは言い難い。
		会員が定期的に学校に出かけ、育成・指導します。	達成 学校へ出かけ指導した作品が応募された。	評価せず 何校に、計何回、のべ何人の会員が出掛けて、その結果、指導に行った学校から何点の応募があったか明記されなければ、評価できない。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	県下への小・中・高の児童生徒に呼びかけ、作品を俳句大会に応募してもらいます。作品集を全員に配布します。	達成 子どもたちの感性豊かな作品が多かった。	達成 学校からの応募が多数あることと、作品集配布は効果的であろう。
		優秀作品を鑑賞することで、今後の育成に役立ててもらいます。	達成 応募者全員に作品集を配布。学校へもクラス分を今後のために送付した。	達成 作品集は大変読みやすく、優秀作品を鑑賞しやすい。
	総括		86. 1%	72. 7%

【成果】

- ・大会そのものは、飽きることなく作品を楽しめる内容であった。
- ・公募をして広く作品を募り、発表の機会提供と子どもたちに俳句作りに触れる機会を提供していることは、素晴らしい成果である。
- ・選者の解説も分かりやすく、初心者でも十分に楽しめる大会である。
- ・自分は全く初めてだったので、大会の様子や業界では当たり前のルールが分からない反面、新鮮であり刺激があって面白かった。
- ・事前に作品集を送っていただいたことで内容への理解が進んだ。前年指摘への対応に前向きな姿勢を感じた。

【課題】

- ・せっかく素晴らしい大会を開催しながら、一般の入場者が少ないのは極めて残念である。もっと活動に自信をもって仲間を増やしてもらいたい。
- ・参加者数が118人とあるが、これは選者や役員、また表彰式だけに出席した親子連れを含めた数字ではないか。子ども俳句の表彰が終わってから客席にいた一般入場者は40人程度と極めて少数であったと思う。会場前方は、選者役員？の席で、客席と斜め対面式となっており、実際の入場者席数は120席程度であったはず。そこに118人の入場者があれば、アンケートに「参加人数が少ない」という声が48枚中に5枚も出てこない。表彰式に来ただけの人数とは分けて計算するほうが、大会の実態をつかむ上でよいのではないか。一般の方の入場者数がどれだけあったかが重要であり、単に数字が多ければよいというものではない。
- ・一般の入場者が少ない、すなわち活動者人口が少ないという現実を見つめて分析し、それを改善するためにはどうするかを知恵を絞って本気で考えてほしい。会員が高齢化して平均年齢が上がっていく中で、積極的に30歳代～50歳代の活動者や鑑賞者を増やす努力をしつづければならないのではないか。
- ・また、総じて目標設定が低いと感じる。自分の手の届く範囲でやるだけではなく、より向上心や発展性のある目標設定をしてチャレンジしてはどうか。仮に達成度が低くなくても大切なのは中身の充実度である。力強く前進する団体は魅力的であり、ひいてはそれが新たな活動者(会員)獲得にもつながると思うのだが、いかがであろうか。主な活動者が年配者ということなら高齢化社会における今後の発展的分野だ。開拓を。
- ・表彰式の段取りが悪かった。上記コメントで指摘した子どもの表彰の件だけでなく、大人の部では、読み上げた名前順と実際の表彰順が違っており、被表彰者が壇上で困惑していた。次年度は要改善。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・大会終了直後のアンケート協力への呼びかけがなされていたのが回収率向上につながったのではないかと、回収に積極的な姿勢が感じられた。
- ・当日句の披露で、読み上げのミスがけっこう多かったように感じた。改善を。



第40回鳥取県演劇連盟合同公演「花のあと」(鳥取県演劇連盟)

平成25年11月30日(土) 鳥取市民会館 大ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県にちなむよう上演内容に手を加えることで、文化アイデンティティの啓発に努めます。	概ね達成 鳥取城の花見風景をイメージしやすいよう広告媒体に取り入れ幕開きの日本舞踊、琴の演奏から上演作品へ入りやすくすることで演劇という舞台芸術の啓発につながると思われる。	未達成 チラシ、ポスター、チケットに、鳥取城趾で撮られた写真を使用していたが、そのことをもって「鳥取県にちなむよう上演内容に手を加える」とことは評価できない。 そもそも「鳥取の文化アイデンティティ」をどう捉えているのか。具体的なアイデアがあったのかどうか。舞台上でどう表現しようとしたのかかわからない。
創造	質の高い文化芸術活動	異なる文化芸術ジャンルの団体との連帯等を通じ、質の高い作品を提供します。	概ね達成 舞踊と邦楽楽器である、琴・尺八と上演作品との連携で、上演作品がより深いものになった。 また、今回新たに取り組んだ「詠み芝居」という技法も、改良の余地はあるが、異なるジャンルと提携しやすい技法である。	概ね達成 舞踊と邦楽の団体と連携して、独特の雰囲気のある舞台を作っていた。惜しむらくは、舞踊が幕開けのみの出演で唐突感があった。演劇内容と絡むような演出を工夫されてはいかがだろうか。
拡大	県民の文化活動支援	県民を対象とした入門ワークショップを開催し、県民が体験を通じて学ぶ機会を提供します。	達成 昨年に続き鳥取市出身の声優を講師に鳥取県東部で開催した。 昨年は中学・高校生の参加申し込みが多かったが、今回は中学生から50代から70代の参加申し込みがあり、幅広い年代の参加があった。 アンケート回収率は87.5% 満足度も87.5%であった。	評価せず 講習会については事前に通知が無く、参加できていないため評価しない。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	異なる文化芸術ジャンルの団体との連帯等を通じ、県民の観賞機会の拡大を図ります。	達成 演劇だけのジャンルにとらわれず、舞台芸術として発表出来たことに今回の狙いがある。また、受け取る観客側も一つのジャンルだけでなく様々な表現を観賞できるメリットもあると思われる。	一部達成 舞踊、邦楽の団体関係者が鑑賞に訪れ、結果として県民の演劇鑑賞機会につながったと思われる。 しかし、観客実数としては目標・昨年実績ともかなり下回ってしまったため、「一部達成」とする。
		広く県民への周知を図るため様々な媒体を利用した効果的な広報に努めます。	一部達成 チラシ・ポスター・劇団 HP・新聞等で、広報したが、思うような集客を得られなかった。関係者による声かけは欠かせないが、費用をあまりかけない広報方法は社会ニーズの限界がある。	一部達成 チラシ、ポスター、HP、新聞等を利用して周知を行った結果、鑑賞者の約半数がこうした媒体で情報を得ていた。しかし来場者実数が目標の3分の2に止まっているところからすると、別のアプローチも必要だったのではないかと考える。例えば、コラボレーションを行った他ジャンルの団体に協力を仰いで数値目標の積み上げを行うなど、具体的に実現可能な目標作りも必要なのではないか。

拡大	県民への鑑賞機会の拡大	障がい者及び、介助者の入場料を無料とします。	達成 手帳による来場者が19名ということで、観賞機会が増えたと思われる。チラシ・ポスターには載せていなかったが、現場の判断として介助者も無料としたことで、受付で喜ばれたという報告もあった。	達成 19名の障がい者が利用されたということで達成と評価。現場対応で介助者も無料としたのは良かった。介助者無料については、事前に周知広報されればなお良い。
育成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	中学生以下の観賞は無料とします。	一部達成 作品内容が、年配者・高齢者・向けということもあり、中学生の参加数は少なかったが観賞の機会があった。	一部達成 無料ではあったが、児童生徒の利用は極めて少なかった。上演内容が児童生徒向きではないということも一因だったのかもしれない。しかし舞踊に児童生徒がかなり参加していたことを考えると、声の掛け方、広報の仕方でもう少し利用があったかも。鑑賞者育成は大切な役割であるので、今後も継続して取り組んでいただきたい。
		総括	71.4%	44.4%

【成果】

- 1.「詠み芝居」という比較的新しい表現方法に加え、他ジャンル団体(舞踊・邦楽)とのコラボレーションにより、新たな舞台芸術の創造に挑戦した。
- 2.昼間と夜間との二回公演を行い、障がい者とその介助者や児童生徒を無料とし、県民の鑑賞機会の拡大を図った。

【課題】

- 1.広報および集客。
- 2.演技、および照明や音響を含めた演出の、質の向上。
- 3.男性および若年者の鑑賞者開拓。

【その他事業に関する意見、感想など】

1. 詠み芝居には、様々な表現の可能性を感じられた。舞台装置を極力シンプルにしつらえ、観客の想像力を喚起する試みも作品世界および演劇技法にふさわしいと感じた。
しかし、観客アンケートで「役者の声が聴こえない」、「時代考証(衣装や着付け)がおかしい」「もたもたしている」などの指摘があり、内容以前の問題で鑑賞者の興味を削いでいたのが残念である。もっと発声を含めた演技や舞台の質を高めて欲しい。
2. 今回の公演では、人物描写と役者の外見や年齢が違いすぎ、違和感を感じた。それ相応の役者が手配できないのであれば、人物の容姿や年齢を説明している地文は、思い切って省略するとか、人形や小道具を使うなど、物語の真実性を演出する工夫をしてはどうだろうか。
3. 役者のセリフが聴こえない、観客が少なくて寂しいという点について、複数の評価者から、「もっと小さな会場を選ぶ方法もあるのでは」という提案があった。



ヤングピアニストコンサート2013(鳥取県ピアノ指導者協会)

平成25年12月1日(日) 倉吉未来中心小ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	国内外のジュニアコンクール上位入賞者を招き、質の高い演奏を提供します。	達成 ゲストに、各種コンクールで上位入賞の東京芸大大学院生の鯛中君を招聘。プロ並みの演奏に観客も大満足だった。	達成 国内外での各種コンクールに入賞実績のあるゲスト演奏者を迎えたことは、同じ道を目指す子供たちにとって、良い刺激と目標になった。また、レベルの高い聞き応えのある演奏は、一般の観客も十分に鑑賞することができた。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	チラシ、ポスター、新聞等での広報や、学校や音楽教室へのダイレクトメール送付など観客の動員に努める。	一部達成 日本海新聞にカルチャーコーナー記事、案内記事を掲載してもらった。ポスター、チラシを街中、公共機関、学校、ホール等に貼り、音楽教室へもダイレクトメールを送付したが、動員アップにはならなかった。	一部達成 新聞等の広報以外に、チラシやダイレクトメールなどで観客動員拡大に努めたが、目標には届かなかった。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	熱心にピアノを学ぶ子どもたちに発表のステージを提供し、出演者、鑑賞者共々良い刺激となる場を作る。	概ね達成 出演者は、貴重なステージ経験を積むことができた。観客の子ども達からも、「勉強になった」「自分も頑張ろうと思った」等の声が寄せられた。	達成 聴衆を前にしたステージでの演奏は、子供たちにとって貴重な経験となっている。また、子供たちの熱心な演奏は、鑑賞者を楽しませた。
		教室の子どもたちを外のステージに参加させることにより、指導者のレベルアップをめざす。	概ね達成 指導者にとって、厳しい場であるが、コンサートに向って、切磋琢磨できたと思う。	概ね達成 外部から具体的な成果を測ることは難しいが、指導者がお互いに切磋琢磨する、研鑽の場となっている。
		公演の円滑な運営を図るためスタッフのミーティングをもち、良い会場環境を作るように努める。	一部達成 ミーティングで打ち合わせ、係員を配置し、会場整備に努力したが、演奏中の出入りがあり、残念だった。	一部達成 以前に比べると改善が見られたが、演奏中の出入りなど、マナーの悪い観客にスタッフが対応できていない。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	ピアノを学ぶ子どもたちへのダイレクトメール送付、学校への案内などを出し、子どもたちへの鑑賞機会を提供する。	一部達成 住所のわかる子どもたちへ、ダイレクトメールを送付し、学校へもポスター・チラシをもっていき、案内した。学校から子どもたちへ、鑑賞の勧めもあったようである。	一部達成 評価者には確認できない部分であるが、ダイレクトメール以外にも、学校にポスターやチラシを持参するなど、鑑賞機会の拡大に努めたことは評価したい。
総括			55.6%	61.1%

【成果】

- ・子どもたちにとってはステージ経験を積み、さらに、他の出演者やゲスト奏者から良い刺激と目標を与えられる、貴重な機会になっている。
- ・司会者が演奏の合間に出演者にインタビューをするなど、ステージ演出に新しい工夫を取り入れたことにより、鑑賞者と奏者の距離が近づいて、リラックスしてコンサートを楽しめた。
- ・県内全域の小学生から高校生まだが、演奏者として参加できたことは、意義があった。
- ・プログラムが、コンパクトで分かりやすく作られていた。
- ・指導者にとって、自分の指導法を考える際の参考になる。

【課題】

- ・出演した子どもたちが、客席で相互に鑑賞し合うのは大切なことだが、演奏中の出入りなど他の観客に迷惑をかける行為が見受けられた。
- ・公演時間が長い。もっと出演者を絞り込んでも良かったのではないか。
- ・インタビューの試みは良かったが、演奏曲を選んだ理由や好きな作曲家など、子どもの思いを汲み取るような質問があると良かった。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・以前に比べると、会場係が配置されたり、演奏の間出演者へインタビューをするなど、運営・進行についていろいろ改善点が見られた。しかし、一般の鑑賞者はまだまだ少なく、たびたび指摘される「内輪の発表会」に過ぎないという感想は否めない。一生懸命ピアノの勉強に取り組む子供たちのためにも、いっそうの努力を期待したい。
- ・特定の作曲家の超絶技巧曲ばかりが目立った。全体をひとつの公演と捉えて構成し、演奏曲を調節する工夫が欲しい。

【要改善事項】

出演者の席を確保し、責任者を置いてマナーの改善を図ること。



県民による第九鳥取公演(県民による第九公演実行委員会)

平成25年12月23日(月・祝) とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	昭和 60 年からの継続事業であり、鳥取県民としての誇りをもって取り組む事業とします。経験者がリードして後継者を育成していくことや新たな企画を考えることによって、さらに誇れる事業としたいです。	達成 鳥取出身のソリストや器楽奏者による、合唱・演奏指導を受けることができた。また、新たな企画として、アンコールに「ふるさと」を入れることができて、鳥取での文化活動の増進を図ることができた。	達成 30年近く続く事業は関係者の努力のたまものであり、誇りを持って取り組んできた事業として、成果が見られた。 オーケストラ、合唱共に一定のクオリティを保ち、観客も一体となったコンサートは1年の締めくくりにあふさわしいものとなった。 マスコミ露出が少ないのが少々残念である。
		プロからの指導や指示によって質の向上を目指します。指揮者、オーケストラ演奏者、ソリストの中には世界で活躍するプロフェッショナルもいるので、十分な指導を受けることにより、演奏技術の向上など、質を高めること図ります。また合唱団においてはネイティブな言語指導をドイツ人(国際交流員)に行って頂きます。	達成 鳥取出身のソリスト、器楽奏者により、合唱団オーケストラそれぞれ指導を受けることができた。 合唱団においては、鳥取市の国際交流員によるドイツ語の発音指導を受けた。	達成 鳥取県出身のプロ音楽家からの指導は、参加者の貴重な経験とレベルアップにつながっている。 国際交流員に働きかけドイツ語の発音指導がなされるなど、質の向上につながる努力が感じられる。
創造	質の高い文化芸術活動	第九演奏のみであれば毎回同じ内容になってしまうが、創意によって、いかに演奏者とお客様が楽しめるステージにするかを毎回研究していきます。今回は「ふるさと」を、オーケストラ、合唱とソリストにも参加いただき、演奏します。	達成 当初は「ふるさと」を第 1 部にと企画したが、構成的にアンコール演奏とすることにした。 終演後のお客様から「ふるさと」には感動したと、興奮された感じでご報告いただくほど、質の高い演奏に好評であったと感じた。	概ね達成 「ふるさと」の合唱は、鳥取県内他のコンサートでもよく見られる手法で珍しい事ではないが、観客と演奏家を結びつけ一体化を促す効果的な役割を果たした。
		なるべく多くの県民に参加いただけるように新聞折り込みをはじめ、新聞やラジオ、情報誌など様々な手法で団員募集をおこないます。 また、練習参加ができない方には、専用の練習 CD を斡旋するなど、参加後のフォローも行っていきます。	達成 新聞折り込みを活用し、合唱団募集を行った。その結果多くの県民に周知ができた。また、そのおかげで初心者の参加者が多かったが、練習用 CD の斡旋でかなり効果があったと感じる。 また、参加者の負担軽減(入会金)を図るなど配慮した。	達成 初心者のために練習 CD を用意するなど、参加後のフォローがなされ、主催者のコンサートへ向けての熱意が感じられる。

拡大	県民への鑑賞機会の拡大	新聞やチラシ、ポスターなどを活用し、広く県民に周知するようにします。また常に経費を見直して入場料を安価に設定するにします。	一部達成 あらゆるメディアに広報のお願いをしまくったが、あまり記事には載らなかった。 ただし、新聞折り込みを初めて採用するなど、前向きに取り組みができた。 入場料は中西部との兼ね合いも考慮するよう鳥取県文化団体連合会から指導があり、前回通りとした。	概ね達成 新聞折込みを採用するなど努力が見られるが、メディアへのパブリシティ依頼は日頃のつながりが大切なので、そのための努力も必要。 入場料は、観客にとって妥当な価格が設定されていた。
育成	人材育成（指導者、後継者等）	後継者育成は重要な課題であり、新規の指導者を擁立し、パート練習の指導を経験してもらうことなど図りたいと思います。	達成 合唱ではパート練習指導者に若手を配置して、後継者育成を図った。 オーケストラでは、若手演奏者を配置し、経験豊富な演奏者が演奏技術の助言をした。	概ね達成 合唱、器楽演奏にベテランとともに若手の姿も見られたが、さらに中、高校生を増やす工夫が欲しい。 指導者、後継者が、徐々に育ちつつある。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	小中学校の児童生徒に、質の高い音楽に触れてもらうように、興味のある児童は鑑賞できるよう招待するなど案内します。	概ね達成 少年少女合唱団が鑑賞を希望され、ご招待として入場いただいた。また、鳥取西高の吹奏楽部の部員生徒さんに鑑賞してもらった。	概ね達成 少年少女合唱団や高校吹奏楽部部員が招待されたが、興味のある児童、生徒だけでなく興味を持たせる努力も必要。
		総括	85.7%	81.0%

【成果】

- ・伝承、質の向上、若手育成全てにおいて努力が感じられる。
- ・オーケストラ、ソリスト、合唱団、観客が一体となりコンサートを楽しんでいた。
- ・男性の合唱参加が他地区より多く厚みがあった。

【課題】

- ・3地区持ち回りのイベントのため開催地住民の観客が多いが、他地区からの観客としての参加者を促すことができればそれぞれの地区の良さを鑑賞することができ全県的なイベントに発展させられるように思う。
- ・入場者に対するアンケート回収率の悪さが目立つ。アンケート回収率の悪さを解消する工夫をしていただきたい。
- ・「子供連れの鑑賞は微笑ましさを感じるが、マナーが悪いと目障り」という、アンケートの意見があった。鑑賞する力を育成する必要がある。
- ・マスコミ露出が少ないのが、少々残念である。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・開場前の列が2列であったため長い列ができていたが、入口では数名のもぎりの方がいたため流れが悪く、列も乱れていた。4列にして大行列緩和をされても良かったように思う。



IV 専門家評価

第 11 回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート 2013 メイン事業

「とりアートスペシャルコンサート 『鳥たちの音楽祭 ～FLY HIGH!～』

平成 25 年 11 月 24 日（日） とりぎん文化会館 [梨花ホール]

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター講師 筒井 宏樹

1. はじめに

「とりアートスペシャルコンサート 『鳥たちの音楽祭』」は、鳥取市在住のジャズピアニストで作曲家の菊池ひみこ氏をプロデューサーとし、鳥取 JAZZ 実行委員会をはじめ、鳥取県オーケストラ連盟、鳥取県合唱連盟、鳥取県吹奏楽連盟の 4 団体で組織される「とりアートスペシャルコンサート実行委員会」によって実施された事業である。本事業の位置づけである「とりアートメイン事業」は、文字通り「とりアート」全体のメインイベントであるが、「とりアート」開始から 10 年が経過したことを機に、1000 名を超える「県民」からのアンケートに基づき、これまでの成果と課題を検証し、「県民」のニーズがより反映されるよう再スタートとなった。本事業はその最初の企画となる。

2. 基本方針にもとづく評価

(1) 企画意図

本事業は、「ジャズ」がメインのコンサートである。しかしながら、「鳥たちの音楽祭 ～FLY HIGH!～」というタイトルからも「ジャズ」を前景化しないように、という配慮がうかがえる。菊池ひみこ氏によれば、このタイトルには「鳥が羽ばたくが如く、鳥取の音楽シーンがいつそう盛り上がるきっかけ」をつくるという意図が込められている¹。実際に、本事業の構成メンバーは、「ジャズ」ミュージシャンだけではなく、子供たちによる合唱メンバー、オーケストラメンバー、鳥取のポピュラーミュージックシーンで活動するさまざまなジャンルのミュージシャンなどから成り立ち、幅広いジャンルや立場の者達によって協働でコンサートが作り上げられるよう企画されている。第一部では、ニューオリンズジャズ、ゴスペル、ブルース、ソウル、オールディーズ、スウィング・ジャズ、モダンジャズ、フュージョンなど、ジャズを軸としながらも、さまざまな音楽ジャンルが演奏された。

また、「ジャズ」は、われわれが日常において耳にする現代の音楽のルーツであるという位置付けを強調することで、「ジャズ」愛好者だけを対象とするのではなく、広く「県民」に開かれたコンサートになるよう意図されている。

「とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）」におけるこれまでの「メイン事業」では、「朝日座」「八賢伝」など、県内東部・中部・西部の各地域に埋もれている身近な文化資源を題材に求めることが多かった。それについて、「観客の視点に立った事業展開ができていない」、「テーマ、ジャンルの決め方に透明性及び柔軟性が必要」、「歌舞伎をはじめとする古典に執着しすぎている」といった問題点が挙げられた²。

それに対して、本事業では、さまざまなジャンルの演奏家による協働、今日のポピュラー音楽の源流としての「ジャズ」という位置付けによって、今日性を重視し、広く「県民」に開かれた事業を目指すという明確な企画意図を窺うことができ、従来の問題点の解決に尽力している。

また、第二部のジャズピアノ・コンチェルト『ふるさと ～Home In My Soul』は、鳥取県出身の作曲家・岡野貞一の曲『故郷』をモチーフとしており、さらに、「鳥取県総合芸術文化祭」誕生のきっかけとなりその精神の基である 2002 年の「国民文化祭」のイメージソングである。つまり、本事業の企画は、広く県民に開かれたものを目指すと同時に、地域の歴史的・文化的資源を題材に求めるという従来の「メイン事業」の「地域文化の継承と展開」という目標戦略をも満たしている。

¹ メイン事業当日配付されたパンフレットの中の以下の文章より。菊池ひみこ「『鳥たちの音楽祭』によせて」

² 「とりアート構想の実施にあたる手引き」より。

(2) 事業内容

本事業内容は、下記の通りである。

『鳥たちの音楽祭 ～FLY HIGH!～』

第一部 ジャズ&ポピュラーミュージック・ライブ “FLY HIGH!”

- 鳥取県立鳥取東高校吹奏楽部
- 鳥たちの音楽祭ゴスペルクワイア
- The Matchbox (地元ブルースバンド)
- ゴールデンアワー (地元ソウルバンド)
- Sexy Dogs (地元オールディーズ「ロックンロール」バンド)
- 鳥たちの音楽祭ジャズオーケストラ (地元 MM Big Band メンバー&プロ)

第二部 ふるさと ～Home In My Soul～

- 鳥たちの音楽祭スペシャルオーケストラ
- 鳥たちの音楽祭スペシャル合唱団&ソロヴォーカル

(3) 実施手法

実施体制の一団体である鳥取 JAZZ 実行委員会は、菊池ひみこ氏を中心に 2011 年より鳥取市中心市街地を会場に開催されるジャズ・フェスティバル「鳥取 JAZZ」を主催する。本事業が独立したのではなく、3 回目となる「鳥取 JAZZ」と合わせて開催されたことで、相乗効果があったと考えられる。それは、本事業が梨花ホールという大規模なホールでコンサートを実施したことで、「鳥取 JAZZ」で展開されたライブハウスや路上での演奏とはまた異なった鑑賞体験を提供したこと、サクソプレイヤー近藤和彦氏をはじめとする招聘した一流のジャズミュージシャンたちも「鳥取 JAZZ」の初回から参加していたことで鳥取県における継続的な活動につながっていること³、事業の県民への宣伝という広報面における効果などが挙げられる。

また、少年少女合唱メンバーの公募、鳥取のミュージシャンやオーケストラのメンバーを募集したことで、「アマチュアと専門家のコラボレーション」を積極的に行い、異業種とまではいかないが、音楽のなかの異なるジャンル間との連携も積極的であり、さらにこうした連携の機会を設けることは、人材育成としての観点からも評価できる。そして、プロ&アマ、県外&県内を含め、これだけ大人数のコンサートを、半年間におよぶ計画的な練習を積み重ねたうえで実施したプロデュースの手腕は、なによりも高く評価されるべきだと考える。

(4) 来場者の属性

「とりアートスペシャルコンサート実行委員会」によって提出された事業評価シートによると、本事業の来場者数は、954 人である。また、アンケート結果 (総数 235 人) によると、性別は、男性 38.72%、女性 57.02%で、これは例年の「とりアート」全体の比率からすると、男性がやや多いといえる⁴。来場者の年齢構成は、10 歳代以下 8.94%、20 代 7.66%、30 代 8.51%、40 代 12.77%、50 代 20.85%、60 代 22.98%、70 歳以上 9.36%で、50 歳代&60 歳代の割合が多いものの、10 歳代から 70 歳代までほぼ万遍なく分布しており、幅広い年齢層の来場者を集めたといえる。居住地は、県外が 3.83%と、ほぼ県内からであった。

(5) 観客の反応

アンケート結果によれば、本公演の「全体として」の評価は、「とても満足」と「満足」を合わせて、85.1%であった。これは、過去の「とりアート」全体の満足度と比較すると高い数値といえるだろう⁵。鑑賞者アンケート自由回答欄には、「とてもよかった」「感動した」とのコメントが多数あり、これらは「県民」のニーズに沿った「メイン事業」としてふさわしい内容であったことを伝えるものである。参考意見として、少数の否定的ととれるコメントを補足すれば、「オケがもっと前にでて来れば良い」「音響が大きすぎる」といった意見があった。これらはクラシック音楽のファン層による意見だと思われる。

本公演の個別の評価項目として、「演奏・歌唱等の質」、「演目内容」、「構成・演出」、「公演の長さ」、「料金」があるが、その中で、満足度の一番低かったものは、「公演の長さ」(「とても満足」「満足」を合わせて 71.92%)であった。鑑賞者アンケート自由回答欄には、「時間が延びすぎ」「終演時間も悪い

³ 「鳥取 JAZZ」は第 1 回目から「定期的な開催を望む声」が多数あった。『第 9 回とりアート報告書』、9 頁。

⁴ 「とりアート」全体の男性の比率は、第 9 回 32.8%、第 8 回 28.4%、第 7 回 30.9%であった。『第 9 回とりアート報告書』、21 頁。

⁵ 過去の「とりアート」全体の「とても満足」および「満足」の比率は、第 9 回 79.9%、第 8 回 78.0%、第 7 回 78.9%。『第 9 回とりアート報告書』、19 頁。

であると嬉しい」とのコメントがあった。実際に、チラシとパンフレットには、開演時間のみが記されていて、終演時間の記載がなかった。2部構成かつ、さまざまなバンドによる大規模なコンサートなので、終演時間およびタイムスケジュールを聴衆にも共有できるように配慮することが望ましいといえる。

3、公演に対する感想

・会場のセッティングに工夫が見られた。「JOE SULLIVAN」「BLUE TRAIN」などの文字が記載されたイメージパネルや植物、舞台のサイドに置かれたテーブル席などは、最小限の道具ながらも大ホールをライブハウスのような雰囲気仕立てるのに効果的であった。特に客席から見える位置にテーブルを置き、舞台袖としたことで、待機している出演者たちの率先したリアクションが見え、演奏者と聴衆とのあいだをつなぐ役割を果たしていた。

・第一部冒頭の鳥取東高校吹奏楽部および出演者たちによる「ファンファーレ」を奏でながらの至る所からの登場は、広い会場を有効に使用しており、非常に印象的な開幕であった。聴衆を効果的に巻き込むことに成功し、会場からすぐに手拍子がおきた。

・演奏と演奏の合間の菊池ひみこ氏および福浜隆宏氏（日本海テレビアナウンサー）によるMCは、多くのバンドが入れ替わり立ち代わり演奏するプログラムを飽きさせず、スムーズに進行するうえで非常に効果的であった。また、トークの内容も、「ジャズ」やそれぞれの音楽の愛好者以外にも広く楽しむきっかけを与え、今日のポピュラー音楽の礎としての「ジャズ」というテーマがよく伝わるものとなっており、「県民」により開かれた事業としてのパフォーマンスを提供していた。

・「鳥たちの音楽祭ジャズオーケストラ」は、特別編成されたビッグバンドによる演奏、アルトサックスのソロなど、非常に聴き応えがあった。また、菊池ひみこ氏の新曲「FLY HIGH!」の初披露によって充実した内容となった。

・第2部の「ふるさと ～Home In My Soul」は、スペシャルオーケストラによる壮大な演奏かつ、すでに記載した通り、鳥取県出身の作曲家の曲をモチーフとし、「鳥取県総合芸術文化祭」開催のきっかけとなったという意味においても、本事業にふさわしいものであった。また、演奏だけではなく、鳥取のイメージ映像のプロジェクトなど、曲に合わせた工夫が見られ、大作を上手く演出していた。また、子どもたちによる「鳥たちの音楽祭スペシャル合唱団」の登場も、たいへんな盛り上がりを見せた。

・最後の手拍子のところで、聴衆が上手く乗れず、やや出演者側と聴衆側とのあいだでやや分断ができてしまったのが残念に思われる。第一部の出演者たちも舞台上に登場し、より盛り上げるための工夫がされていたが、いまいち上手く機能していなかったように感じた。もちろん聴衆が不慣れな部分も大いにあると思われるが、第一部出演者たちが開幕時のように会場全体を有効に活かして再度登場して手拍子を促すなど、演出にさらなる工夫の余地が見られるように感じた。

4、課題と今後の展開へ向けて

以上のように、本事業は、「とりアートメイン事業」の再スタートの第一弾として、従来の成果と課題をよく踏まえたうえで企画・運営がすすめられており、高く評価できる。充実したプログラムの中に鳥取のプロ&アマを多く巻き込むことに成功し、音楽の普及および人材育成の面でも貢献は大きいだろう。また、聴衆の満足度に関しても十分な成果を残した。その上で、今後の展開に向けて指摘できる課題は下記のとおりである。

・【来場者数】。来場者数は954人で、多くの聴衆が入っているが、目標の1200人には到達しておらず、まだ努力の余地はあると思われる。出演者の数が多いので、来場者の中には出演者の関係者も多いはずである。「鳥取 JAZZ」と合わせて Facebook などのソーシャルメディアを宣伝に利用するなど、工夫がみられた点も多いが、広報面をさらに充実させたい。

・【鑑賞者アンケート】。鑑賞者アンケートの回収率が、24.6%で、目標の34%には到達していなかった。特に「県民」にとってより良い事業を行う上では、鑑賞者アンケートは今後の展開に向けて重要である。改善のための配慮を必要とする。

・【「鳥取 JAZZ」の継続】。全国各地でジャズストリートは広まっているとはいえ、「鳥取 JAZZ」は、質や展開の仕方、異業種との協働、会期の長さなどから考慮しても一際すばらしい内容となっている。現在までに3回行われ、継続されていることを喜ばしく思うが、今回の「とりアートメイン事業」の成果を十分に評価し、今後も鳥取県の文化観光事業として「鳥取 JAZZ」を県および「県民」が継続的に支援していくことが重要であると考えられる。

鳥取県文化芸術事業評価委員会

■委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
まつもと 松本 <small>かおる</small> 薫	NHK文化センター米子教室・小説エッセイ 部門講師、文芸誌「さるびあ」主宰	会長
はまだ 浜田 <small>あけみ</small>	社会保険労務士	副会長
うえだ 植田 <small>じょう</small> 丞	元県立高等学校非常勤講師	
おかむら 岡村 <small>ようじ</small> 洋次	(株)新日本海新聞社記者	
おのうえ 尾上 <small>あきら</small> 明	(株)新日本海新聞社中部本社新聞記者	
かじかわ 梶川 <small>さおり</small> 紗緒里	大学生（鳥取大学）	
かわい 河合 <small>はるみ</small> 晴美	元サンケイリビング新聞社編集部	
くもさか 雲坂 <small>ひろみ</small> 紘巳	イラストレーター	
なかむら 中村 <small>ゆりこ</small> 由利子	アトリエ yuri（フラワー&アート工房）、ワー クショップデザイナー	
にしお 西尾 <small>すみこ</small> 澄子	米子市文化協議会事務局次長	
はぎはら 萩原 <small>としろう</small> 俊郎	(株)新日本海新聞社記者	
ひしたに 菱谷 <small>てつろう</small> 哲郎	米子市文化協議会副会長	
まえだ 前田 <small>なつき</small> 夏樹	鳥取短期大学生生活学科准教授	
むらた 村田 <small>まゆみ</small> 真弓	鳥取県合唱連盟理事	
よしの 吉野 <small>りゅう</small> 立	米子市文化協議会常任委員	

■事業別評価報告書執筆担当一覧

【平成24年度事業】(平成25年1月～3月に実施されたもの)

番号	事業名	期日	会場	実地検証 委員数	執筆委員 (●: 担当)
1	第10回鳥取県総合芸術文化祭 西部地区事業	2月10日(日)・11日(月・祝)	米子コンベンションセンター(米子市末広町)	6	●吉野委員 尾上委員
2	第17回鳥取県美術家協会作品展	1月27日(日)～2月3日(日)	倉吉博物館(倉吉市仲ノ町)	9	●菱谷委員
3	TDAデザインクリエイション	3月20日(水・祝)～24日(日)	米子高島屋(米子市角盤町)	4	●中村委員 雲坂委員

【平成25年度事業】(平成25年4月～平成26年1月に実施されたもの)

番号	事業名	期日	会場	実地検証 委員数	執筆委員 (●: 担当)
1	第57回鳥取県美術展覧会	9月14日(土)～11月17日(日)	鳥取県立博物館ほか	11	●岡村委員 村田委員
2	とリアートスペシャルコンサート「鳥たちの音楽祭」～FLY HIGH～	11月24日(日)	とりぎん文化会館「梨花ホール」	10	●萩原委員 松本会長
3	第11回鳥取県総合芸術文化祭 東部地区	11月23日(土)・24日(日)	とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町) イオンモール鳥取北店(鳥取市晩稲)	8	●村田委員 吉野委員
4	第11回鳥取県総合芸術文化祭 中部地区事業	11月16日(土)・17日(日)	倉吉未来中心(倉吉市駄経寺町)	6	●前田委員 萩原委員
5	第11回鳥取県総合芸術文化祭 西部地区事業	1月25日(土)・26日(日)	米子コンベンションセンター(米子市末広町)	6	●植田委員 前田委員
6	音楽日和ライブフェスティバル鳥取2013 vol.15	9月28日(土)・29日(日)	グリーンフィールド特設野外ステージ (湖山池北岸芝生広場)	2	●岡村委員 浜田副会長
7	第37回鳥取県川柳大会	10月19日(土)	倉吉体育文化会館 中会議室	2	●尾上委員 松本会長
8	第42回鳥取県短歌大会	10月27日(日)	琴浦町生涯学習センター 「まなびタウン東伯」	3	●雲坂委員 尾上委員
9	吉月をどり	11月3日(日)	鳥取市民会館	3	●梶川委員 中村委員
10	鳥取和太鼓連盟コンサート 「和太鼓ふるさとの響2013」	11月10日(日)	鳥取県立倉吉未来中心大ホール	4	●西尾委員 菱谷委員
11	鳥取県三流合同謡曲仕舞大会	11月16日(日)	鳥取市文化ホール	2	●浜田副会長 梶川委員
12	「ダンスの日」記念ダンス交流会	11月23日(土)	ゆうゆう健康館けたか (気高町健康増進センター)	2	●菱谷委員 中村委員
13	第18回鳥取県俳句大会	11月24日(日)	倉吉交流プラザ	1	●尾上委員
14	第40回鳥取県演劇連盟合同公演	11月30日(土)	鳥取市民会館大ホール	9	●浜田副会長 植田委員
15	ヤングピアニストコンサート2013	12月1日(日)	倉吉未来中心 小ホール	6	●河合委員 村田委員
16	県民による第九鳥取公演	12月23日(月・祝)	とりぎん文化会館「梨花ホール」	5	●中村委員 河合委員

■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成25年 6月3日(月)	(1) 平成24年度評価対象事業改善計画の承認について (2) 平成25年度評価委員会の体制について (3) 平成25年度評価方針・評価方法について (4) 平成25年度評価対象事業について (5) 評価事業の実地検証及び執筆担当の決定方法等について
第2回	平成25年 7月2日(火)	(1) 平成24年度評価対象事業改善計画承認にかかる事業実施者への通知について (2) 平成25年度評価方針の修正について (3) 平成25年度評価事業の実地検証・執筆担当について (4) 専門家評価の実施について
第3回	平成26年 1月15日(水)	(1) 鳥取県附属機関条例施行に伴う「鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱」の制定について (2) 評価報告書の構成について (3) 評価報告会の実施方法について (4) 事業別評価報告(案)の決定について (5) 平成26年度評価方針・評価対象事業について (6) 今後の予定について
第4回	平成26年 2月19日(水)	(1) 事業別評価報告書(案)にかかる意見交換 (2) 事業別評価報告書の様式等について (3) 今後の体について
第5回	平成26年 3月13日(木)	(1) 2月実施事業(第35回鳥取県書道連合会展)にかかる意見交換 (2) 事業別評価報告書について ・修文案等について ・要改善事項について (3) 総合評価の掲載内容(構成、記載内容等)について

※評価報告会(平成26年2月28日)において、評価結果(案)について事業実施者と意見交換

鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

(委員会の任務)

第3条 委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
 - (2) 評価項目の作成及び調整
 - (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
 - (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
 - (5) 被評価者が作成する改善計画の承認
- 2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

(委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

(組 織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）のうちから鳥取県文化観光局長が委嘱する委員をもって構成し、選考には公募を取り入れる。

- 2 委員は20名以内とする。

(会 長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任 期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(追加の委員委嘱)

第8条 会長は、委員に欠員が生じ、第3条に定める任務の遂行が困難であるときは、追加の委員委嘱を文化観光局長に要請することができる。

- 2 文化観光局長は、前項の要請の妥当性を確認し、速やかに追加の委員委嘱を行う。
- 3 前項により追加で委嘱された委員の任期は、前条の規定にかかわらず、現任委員の残任期間とする。

(会 議)

- 第9条 委員会の会議は、鳥取県文化観光局文化政策課長が招集し、会長が議長となる。
- 2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
 - 3 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。
 - 4 会議は、公開とする。

(事務局)

第10条 会議の事務を処理するため、鳥取県文化観光局文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第11条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補 則)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

(準備行為)

2 第5条第1項の規定による委員の委嘱等及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この要綱の施行前においても行うことができる。

※附属機関条例施行に伴い失効（平成25年10月11日）

鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

(委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

(委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

(組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名をもって組織する。

(会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

(会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあっては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県文化観光局文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

※第3回鳥取県文化芸術事業評価委員会（平成26年1月15日開催）において承認され施行。

平成25年度

鳥取県文化芸術事業評価報告書

平成26年4月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会事務局（鳥取県文化観光スポーツ局文化政策課内）

電話 0857-26-7134

ファクシミリ 0857-26-8108